

告 日 本 國

ポール・リシャール著
大川周明訳

内外維新研究所刊

再 版 例 言

一、フランスの生んだ大哲詩人ポール・リシャルは、大正の始め、光と道を東方に求めて初度のアジア旅行を試み、まづインドに至って大哲アラビンダ・ゴーシュと結盟し、次で大正五年(一九一六年)再度のアジア旅行を実施、日本に来たり、哲人大川周明博士と鉄石の交りを結んだ。同年秋、リシャルの『告萬国』が印度に於て出版され、心ある世界各国人士の胸底をうった。『告日本国』は、大川博士の懇望により、大正六年一月、潔斎籠居三十五日にして完成された歴史的一文で、はじめフランス語の原文に大川博士の日本訳、松平康国翁の漢訳、リシャル夫人の英訳を合せて刊行、非常なる反響を呼び、次で大川博士

訳纂のリシャル著作集『第十一時』に収録され、のち昭和十六年二月、大川博士の長い跋文の附いた新版が公刊され、その後絶版になっていた。

一、昭和三十二年秋、大川博士の快諾を得て復刊に着手、右新版を底本として、まづ雑誌『不二』十二月号誌上に掲載したが、その月二十四日、七十二歳を以て博士が逝去されたので三十三年一月、これに博士の遺稿三編を加えて追悼出版した。

一、今回、リシャル氏の在日四年間の講演集『黎明の亜細亜』が幡掛正治氏の訳で刊行される機会に、本書『告日本国』の再刊を行ふこととした。便宜上、再版には大川博士の遺稿を除いた。

一、なほ、ポール・リシャル氏は今年八十三歳、終戦後アメリカのデューク大学の招きに応じ哲学と数学の自由講議をされつつ、日本とアジアと世界の運命を切に憂ひて居られる。二十数年ぶりに大川博士の最後の病床上に寄せられたリシャル氏の近作の詩の中には、

曾て亜細亜の強国たりし日本は今や更に偉大なる夢を抱く

日本の蘇生は新しき亜細亜の輝く心たらむためなり

斯くて再び亜細亜より世界の光輝かむ

とある。

昭和三十四年七月

序

告日本国一篇は、予が断金の友ポール・リシャル君が、予の求めに応じて起稿し、大正六年一月、兀坐冥想三十五日にして成れるもの、日本国體の莊嚴を闡明し、その使命の雄渾を提示せる点に於て、正に、希有絶倫と稱すべし。深く日本精神と感応道交せる者に非ずば、断じて能くせざるところなり。先覚川嶋浪速先生、之を一読して至心に感嘆し、ミラ夫人の英訳、松平康国翁の漢訳、並に予の邦訳を併せて之を剞劂に附し、先づ之を時の皇太子殿下に奉献し、次で弘く朝野の士に頒ち、後にリシャル君の諸篇を訳纂したる予の『第十一時』に収録したり。

今や当時単行の小冊並に『第十一時』ともに之を得るによし無きに至りしに拘らず、日本がリシャル君の言に聴くの要、更に切実を加へ来れるを痛感し、茲に復た之を刊行して国民の覚悟を新ならしめんと欲す。ポール・リシャル君の為人については、乞ふ、末巻の予が一文を読め。

昭和十六年二月

大川 周明

序文

『告日本国』の一篇の書は、私と固い友情で結ばれたポールリシャル氏が、私の求めに応じて起稿し、大正六年一月、座つたままじつと瞑想すること三十五日にして成され、立派で嚴かな日本の国體を明瞭にし、その使命の力強さを提示する点に於いて、まさに、飛びぬけて優れたものが書き写されている。深く日本精神と感応しその道に交わる者ではないにも関わらず、断固として手落ちなくしている。学識や見識の優れている川嶋浪速先生は、これを一読して心から感動して、ミラ夫人の英訳、松平康国翁の漢訳、並びに私の日本語訳を併せて印刷することにし、まずこの書を皇太子殿下に奉献し、次に広く世間の平民に配付し、のちにリシャル氏の諸篇を編集し直した私の『第十一時』に収録した。今では当時単独で行った小冊と『第十一時』は、ともにこれらを得ようとしたが、由来無きものと諦めていたにも関わらず、日本がリシャル氏の言葉に耳を傾けることが重要で、更に身近に深くかかわってきていることを痛感し、ここにこの書を再び発刊して国民の覚悟を新たにすることを実現したい。ポール・リシャル氏の人となりについては、末巻に記載してある私の文章を見て欲しい。

昭和十六年二月

大川 周明

【原文】

吾れ普く世界に正義の国を覓む。正義の国は将来の国なり。蓋し将来は正義の国に属すべきが故なり。正義の国、地を嗣がん。

而も見よ、諸々の国、名を正義に籍る。彼等日く、吾等正義の為に戦ふと。吾れ其手を見るに、其手掠奪と残虐との血に汚れたり。故に吾れ彼等を捨てて去んぬ。彼等の道は暗夜に導くの道なり。彼等は過去の国なり。

今や諸々の国、互に他を審判せんとして到处に相争ふ。将来の国、正義の国は、能く現前の乱禍に処して大義を守るの国たる可し。吾れ普く世界に如是正義の国を求む。夫の自由国、その戦ふは征服のために非ず解放のためなり、自由を抑圧の国、隷属の民に与へんがためなり、弱者に与する夫の強大国、譬ふれば正義の守護神の如く、無垢の手に劔を執り血を塗らんがために非ず光を耀かさんがために其劔を揮ふ。如是正義の国は何処ぞ。

吾れ日本を瞻望す。

【現代訳】

私は、広く世界に正義の国を求めております。正義の国は将来あるべき国でもあります。それはまさしく将来、正義の国に望みを託するからであります。人の道にかなつて正しい国は、大地をまとめてくれるからであります。

しかも見て下さい、各国は正義を表面上の口実にしております。彼らは云います、「我らは正義の為に戦う」と。私はその様を見るに、略奪と残虐の血に汚れているのです。だから私は彼らを捨て去りました。彼らの行いは暗夜に導くごときです。彼らは過去の国なのです。

今や各国は、互いに優劣を決しようとして相争っております。将来の国、正義の国は、現実を起こっている世の中の乱れを十分にとりさばいて、道義を守る国であるべきです。私は広く世界に、このような正義の国を求めております。私が求める国が戦うのは、征服の為ではなく解放の為に戦うのです。無理やり押さえつけられ支配を受けている国の人々を自由にする為であり、弱者に味方する強くて大きな国であり、例えれば正義の守護神のように、清浄であるその手に劔をとり、血を塗るのではなく、光を輝かすためにその劔をふるうのであります。このような正義の国はどこにあるのでしょうか？

私は、日本を遠く見渡しております。

【解説】

ポーリリシャルが来日した当時、母国であるフランスがあるヨーロッパは第一次世界大戦を終え、荒廃しておりました。その戦争は侵略戦争であり血で血を洗う略奪と残虐な戦争でした。リシャルはこの状況を嘆き、世界を正しく導く国を心から求めたのであります。

そして、はるか遠い日本と言う国に注目したのでした。

【原文】

吾れは日没するの国、其地火焰に包まれ、其の諸国頹廢に瀕せる西方より、曙光の国、日出づる帝国に來れり。聴け、吾れは我が母国に語るが如く汝に語らん。蓋し世界の一切の高貴なる人、凡ての国を視ること己が国を視るが如くし、凡ての国に盡すこと己が国に蓋すが如くする日必ず到らん。而も吾れ爾餘の如何なる諸国に語らんより、特に汝に向つて肝膽を披瀝し得るは、蓋し汝は其の感ずること諸国に優りて深甚なるが故なり。

吾が言に聴け。聴きて汝が国民として世界に於ける使命を覚れ、使命と天職とを覚れ。

汝が此の使命のために選拔せられ、祝福せられたるは、決して今日の事に非ざるなり。汝は多幸なる島嶼を城砦として其裡に建設せられたり。恰も是れ繞らすに波浪の墻壁を以てし、海洋を以て警護とせる安全なる揺籃裡に長養せるに譬ふべし。されど敏感なる国土に揺られたるが故に、不覺の甘睡に墮することなかりき。

【現代訳】

私は、日が没する国、其地は火焰に包まれ、其の諸国は衰えすたれようとしている西方より、夜明けに、東の空にさしてくる太陽の光の国である帝国に來ました。ぜひ聞いてほしいのです、私は自分の母国に語るようにあなた方に語ろうと思います。まさしく世界の全ての高貴な人は、全ての国を見ることが自分の国を見ることのように、やがて全ての国に尽くす日が來きます。そんなにまでも私は他のどんな諸国に語るよりも、特にあなたに向かつて心の奥底を披瀝しようとするのは、まさしくあなたがその感じることを諸国よりぬきにでて深く感じていると思うからです。

あなたがこの使命の為に選拔され、祝福されるのは、決して今日決まったことではありません。あなたの国は非常に幸せな島を城砦としてその中に建設されました。まさしくここに心を巡らせば、うねりを隔て、海洋が警護となつて、安全に長い間自らを養うに例えらるるのです。しかし、敏感な国土に揺られるが故に、油断して眠ることに陥ることがなかつたのであります。

【解説】

ポールリシャルのいたフランスは、戦争の為に国力が衰え、自分の国の現状を悲觀していました。その中ではるばる日本に來て、日本の伝統・文化・思想などに触れ、世界を見てきたポールリシャルの目にこれまで見たこと触れたことがない感動を伝えるがために、自分の国をも救つてもらわんがために、心から知ってもらうようにうったえたのであります。

その初めに

ヨーロッパは各国が陸続きで、国境を侵されることが絶え間なく繰り返され、自国を守るのに腐心していたことと違い、日本は四方を海に囲まれているために、他国から国境を侵される心配が少ないこと

そして、国境を侵される心配がないからといっても、「敏感な国土」とは地震が頻繁で人々が死と隣り合わせであり、平和にうつつを抜かし、心に油断ができるようなことをしてこなかったこと、そのような日本固有の国土の環境が日本の伝統・文化・思想を育て上げてきたことを感じたのであります。

【原文】

斯くの如くにして前後三千有餘年、汝は天祐の下に自家本来の国是に従つて国家を組織し且之を發達せしめ、未だ曾て一たびも異国の征服を受けず、又未だ曾て滅亡の厄に遭はざるなり。

是れ実に今日日本が人類の歴史に於て比類なき自尊と無上の榮譽とを賦与せらるる所以なり。

三千有餘年、汝は独り遼遠の過去より現人神として悦んで選り奉れる大君をのみ奉り来れり。

如何なる国民が能く數千年唯だ一系の皇統を仰ぐの異常なる榮譽に与かるもので、而も一系の皇統は即ち一人の天皇に在す。蓋し心霊の眼を以て觀れば、汝を統治するものは不斷に同一なる大御心に非ずや。而して祖宗より繼承せる神鏡に対し給ふ天皇は、鏡中に映ずる真影の中に、列祖列宗の生きて儼存するを認め給ふに非ずや。

【現代訳】

このようにして、三千有餘年、あなたの国は天の助けの下、自身本来の国是に従つて国家を組織し、それを發達させ、未だかつて一度も異国の制服を受けず、また未だかつて滅亡の危機に遭つておりません。これ実に今日の日本が人類の歴史に於いて、比類なき自尊とこの上ない榮譽を分け与えられている所以なのであります。

三千有餘年、あなたの国は独立して遙か遠い過去より、現人神として、気持ちよく受け入れられ選出された大君だけを奉じてきたのです。

どのような国民が、よくもまあ數千年ただ一系の皇統を仰ぐ異常なほどの榮譽にあずかれるのでしょうか、しかも一系の皇統は一人の天皇でおられる。およそ心霊の眼を以て觀れば、あなたの国を統治するものは途絶えないで続いてきた同一なる天皇の御心とは違わないのではないのでしょうか。そして歴代の天皇より繼承されたご神鏡に對される天皇は、鏡中に映るご自分の姿の中に、歴代の天皇が代々受け継がれ、現実にご自分が天皇として生きていることを認められるに違いありません。

【解説】

日本は四方を海に囲まれ、ヨーロッパのように隣国と陸続きでない為、国境が侵されることもなく、一度も征服を受けず滅亡の危機にもあつていないのは、世界史をみてもまれで榮譽なことであるとリシャールは言っております。そして建国以来、天皇家

と言うただ一系の皇統を仰いできました。

日本以外の世界の国々は、国内・国外において戦争が起こり、国家元帥や皇帝と言われている国を代表する人々が必ず滅びております。

ヨーロッパでは、強大を誇ったローマ帝国、ギリシャ神話でも有名なギリシャなど数限りなく生まれ滅びています。

お隣中国もその例にたがわず、むかしでは秦の始皇帝、漢王朝、最近では清王朝も滅びております。

しかし日本は有史以来、国を代表する天皇家が滅びずに存在しているのは、日本と言う国の榮譽であり、天皇自らもその歴史の重要性を認識しておられるのではないかと言っているのです。

【原文】

独り自由を保全したる亜細亜の唯一国よ、独り自由を保全したる世界の唯一国よ。汝は自由を萬国に与へんが為めに出現したることを覚れ。

汝の榮譽は帝に是れのみ非ざるなり。汝は萬国の侵略に対して防護せられ、而も汝に来れるものは必ずや何ものかを将来せずと云ふことなかりき。汝は賜物を萬国より受けたり。一切の文明は其の起る毎に、譬ふれば福神の如く、其の賜物を授けんがために汝に臨めり。諸文明伝来の回顧は、直ちに日本進歩の段階を物語る。支那、印度、更に後れて欧羅巴は、其の有する至上のものを双手に満て々汝に来れり。汝の敵が、汝と劔戟の間に見えたるすら、畢竟汝をして更に偉大ならしむるの機会を与へんがために外ならざりき。

独り他国より福祉のみを受けたる世界の唯一国よ。汝は他に福祉を与へんがために出現したることを覚れ。

【現代訳】

単独で自由を保護し安全であるようにしているアジアで唯一の国よ、単独で自由を保護し安全であるようにしている世界で唯一の国よ。あなたの国は自由を世界の全ての国に与える為に出現したことに気付いてほしい。

あなた方の榮譽はただこのことのみではありません。あなたの国はあらゆる国からの侵略から守られ、しかもあなたの国に来られた方々は必ず何ものか将来きせずと云ったものはおりません。あなたの国は恩恵や祝福をあらゆる国から与えられております。全ての文明はそれが起こるたびに、例えば福の神のように、その恩恵や祝福を授けてもらいたいが為にあなたの国に臨むのです。もろもろの文明が外国から伝わったことを振りかえることは、じかに日本の進歩の階段を物語るのではありません。支那(中国)、インド、更に遅れてヨーロッパは、それぞれが有する最上のものを両手に携えてあな

たの国に來ました。あなたの国の敵があなたの国と刀を交えることすら、結局あなたの国をして、更に偉大なことを知らしめる機会を与えているに過ぎません。

単独で他の国よりも安定した営みを成すことが出来る世界唯一の国。あなたの国は他の国に安定した営みを与える為に出現したことに気付いてほしい。

【解説】

一度も侵略されたことのない日本は、その恩恵があるからこそかえって世界で自由を獲得していない国に、自由を与える榮譽をもっているとのことです。ここでいう自由の対象となる国とは、植民地として隷属している国で、大東亜戦争後、様々な国で独立運動がおこり現在ではそのような国は少ないのですが、当時は多くの貧しい国が、ヨーロッパやアメリカの隷属国となっておりました。

そして、日本はその歴史の中で東洋の文化を受け入れ成熟され、ヨーロッパの文明も受け入れ自分たちのものとしたそのような柔軟性ある日本と言う国・民族に対して、例え敵意を抱き戦争を仕掛けてきても、帰って日本の偉大さを示すに過ぎないことをリシャールは言っております。

世界の国々が不安定な時代にあつて、日本は安定した要素を内在し、各国へそれを知らせる役割もあるという世界に対する使命も伝えております。

【原文】

如是にして一切の至宝は汝を豊かならしめんがため集められたり。古き知恵に加ふるに新しき科学を以てし、偉大なる過去の遺産に加ふるに更に偉大なる将来の希望を以てす。人類の来り飲める一切の大河の合流する処に坐して、汝は互に相背馳する流れを融合したり。汝は相反ける二個の精神、二個の世界を結合せり。即ち東洋の精神的財宝を嗣げる『東方の児』は、今や更に『西方の児』となりて、其の物質的勢力を賦与せられたり。

相反ける精神の流れ再び相結ぶ第一国、如何にして欧亜の思想を統一すべきかを知る第一国汝は互に相補ひて将来の世界を成満すべき此等両部の統一者として出現したり。汝こそ将来の第一国なれ。

【現代訳】

このようにして、全てこの上なく大切な宝はあなたの国を豊かにするために集められたのであります。古くから伝わる知恵に加えて新しい科学を受け入れことで、偉大な過去の遺産に加えて、更に偉大な将来の希望が築かれるのです。人類の来り飲める全ての大河の合流する処に座って、あなたの国は互に行き違いする流れを融合させたのです。あなたの国は相反する二つの精神、二つの世界を結合させました。すなわ

ち東洋の精神的宝を継承する『東方の児』は、今や更に『西方の児』となって、その物質的勢力を分け与えられたのであります。

相反する精神の流れを再び相結ぶ第一の国、どうやってヨーロッパ・アジアの思想を統一すべきかを知る第一の国であるあなたの国は、互いに相補つて将来の世界を統一すべきこれら両部（ヨーロッパ・アジア）の統一者として出現したのです。あなたの国こそ将来の第一の国でいて欲しい。

【解説】

東洋と西洋は、歴史からみても大きく分けられてきました。東洋はインド・東南アジア・中国などのどちらかと言えば黄色人種、西洋はヨーロッパなどの白色人種が主に国を造り構成されております。

それぞれの文化はまったく違いますが、日本はもともと神道の発祥の中、聖徳太子の時代より東洋の文化が渡来し、儒教や仏教などが伝来され日本の文化の中に取り入れられてきました。そして、明治に入ると江戸時代までの鎖国を解消しそれまで成熟された日本文化の中に、今度はヨーロッパやアメリカからの科学技術によって作られたものが多く輸入され、日本に取り込まれています。

東洋の精神文化と西洋の物質的なものは、相反するものであるとポールリシャールは言っておりますが、これは平たく言うとな然自然との共存の化と天然自然のものを加工し、便利なものとして生かす文明の違いが挙げられ、これまでの歴史の中で東洋と西洋が融合するわけではなく、それぞれ独立して存在し、相容れないものであったことを言っております。

しかし、相容れない東洋の文化と西洋の文明を日本は受け入れ、融合し、生かしていることに驚き、日本が世界の模範たる国になれるということを言っているのです。世界を統一するということは日本が海外に出て自国のものとするのではなく、長い歴史の中で形成された日本文化が、類まれなる文化であり見習うべきだとのことを言っているのです。

【原文】

諸々の神に愛護せられたる国よ、諸々の神もまた汝に於て互に相和せり。異なる神の宗教は、到处互に相呪ふを常とするに、独り汝の宏量なる奉仕のみは、互に他を排することを為さずして、却つて相補全せしめたり。異なる神の宗教とは何ぞ、一は神の内在を教へ、自然の諸々の生命が躍動する空間に於て、祖先が生動する時間に於て、萬殊に通ずる一如を教ふるもの、他は即ち神の超在を教へ、時空を超越し、永遠の寂靜裡に至上の祝福を司り、独一の中に萬殊を藏するを説くもの是れなり。而して世界に於て流血の汚れに染まず、『地に平和あれ』と宣伝するの権利を保有するものは、唯だ此等両個の宗教のみに非ずや。

【現代訳】

もろもろの神様(八百万の神様・ここであいうと日本の神様)に庇護されている国よ、もろもろの神様(世界におられる神様)もまたあなたの国に於いて互いに和を持って居るのです。異なる神様の宗教は、いたるところでお互いに呪うことを常とするのに(宗教の違いによつて互いに呪いあつて居る)、世界でただ独りあなたの国の心広く奉仕する姿勢は、お互いに相手をしりぞけることをせず、むしろ互いに補うことを全うするのです。異なる神様の宗教とは何でしょうか。一つは神様が存在することを教え、自然のもろもろの生命が生き生きと活動する場に於いて、また先祖が生き生きと動く時間に於いて、様々に異なつて居ることが一つのものであることを教えるものであり、その他はすなわち私達が知らない神様の世界が存在することを教え、時間と空間を超越し、永遠のひっそりとして静かな中にこの上ない祝福をつかさどり、ただひとつあるものの中に様々に異つて居るものを含んで居ることを説いているのが神様というものなのです。そして世界に於いて流血の汚れに染まらず、『地に平和あれ』と宣言することの権利を保有するものは、ただこれらの宗教(日本以外の宗教)のみではないのです。

【解説】

日本は昔から八百万(やおよろず)の神様が鎮まれる国と言われております。八百万とは、「とても多くの」という意味です。しかし、日本以外の多くの国は俗に言う一神教といわれる宗教で、自分民族の神様が一番で他の民族の神様は劣つて居るといふ教えを強調して居る宗教が多くあります。

世界の戦争の歴史は、宗教戦争の歴史と言つても過言ではありません。歴史の授業で習つた遠い昔の「十字軍の遠征」などはその最も象徴的なものです。最近では、イスラエルとパレスチナの紛争などがあります。

また、宗教は政治の道具として使われてきました。キリスト教は多くの派閥を作つておりますが、派閥の争いであつたりまた国の争いであつたりもします。

アメリカでは大統領が就任するときに聖書に手を乗せて誓いますが、その聖書には「汝、殺すなかれ」と記載してある聖書に誓つて居るにも関わらず、アメリカが多くの人々を殺して居る矛盾があります。

イスラム教では「聖戦」と称して、過激なグループがテロを行つており、現代でも宗教戦争は続いているのです。

一方日本は多神教と言われ、どこの神様も多くの神様の一つであるという習慣があります。だから、日本の歴史に於いてこれだけ多くの外国の宗教を受け入れることができました。

ポールリシャルは、世界各国それぞれの神様と言われる宗教が何を教えて居るのかリシャルなりの解釈で示し、決して互いが争いをするもではないことを言つております。

【原文】

此等両宗教の眷顧の下に、或は己が祭壇を築かんがため、或は之に接觸して和らげられんがため、或は淨くせられんがため、爾餘の諸々の宗教その四囲に群り来らん。而して汝は過去に於て東洋の宗教を受けたる如く、今や西欧の宗教を受けたり。西欧の一切、その中に渾融し、猶太、希臘、羅馬、乃至新世界の喧騒裡に、愛の声その中に響き渡る。一は人の神たらざる可からざるを教へ、他は神の人たり得べきを教ふ。然れども今や一切悉く帰一して、更に完全なる将来の宗教を形成すべきを悟るの要なきか。そは今や至聖の無限者を拝するに当りて、一切の過多の儀礼を無用とするの日、既に近づきつつあるが故なり。嗚呼天つ日の児よ、一切の宗教は汝に相集れり、是故に彼等は汝によつて統合帰一の実を見、光明の祝祭を挙げられんことを待ちつつあり。其岸は一切の岸に開かれて之を擁する国よ。その思想は一切の思想に向つて之を調和する国よ。世界が其の放射せる精神の光を求めつつあるが如く見ゆる国よ。汝は人道の希望より生れたり、人道の実現に對する希望より生れたり。

汝の體軀と心神とは如是にして成りぬ。汝の體軀は狭き島の如く精力集注せられ、汝の心は大洋の渺茫たるが如く広濶なり。

【現代訳】

これらの両宗教（日本以外の宗教）をひいき目に見ても、ある者は自分の祭壇を築こうとする為、ある者はこれに触れ合つて苦しみを和らげてもらう為、ある者は心によこれが無いようにする為、その他のもろもろの宗教が四方から取り囲み群がり来るのです。そして、あなたの国は過去に於いて東洋の宗教を受けたかのように、今や西欧の宗教を受けているのです。西欧の全てが、その中に入り混じつて一つとなり、ユダヤ、ギリシヤ、ローマ、あるいはまた新しい世界の喧噪のなかに、愛の聲がその中に響き渡るのです。一つは、人は神様にはなれないことを教え、他は神様が人として何が大切かを教えている。しかしながら、今やことごとくすべてが一つに帰り、更に完全な将来の宗教を形成することを悟らなければならぬ。今やこの上なく智徳の優れている果てしない人々をお見受けするに当たり、全ての過剰な儀式が無用とされる日が既に近づきつつあることがわかります。ああ、皇室を尊ぶ人達よ、全ての宗教はあなたの国にそれぞれ集まり、彼らはあなたの国によって統合され一つに帰ることが現実となり、希望の祝いと祭りを挙げられることを待っていることでしょう。（周囲を海の囲まれ）岸が全ての国の岸に開かれているその国土を有する国よ。その思想は全ての思想に向かつてこれを調和する国よ。世界があなたの国から放たれる精神の光を求めつつあるように見える国よ。あなたの国は人が通るように定められた道の希望から生まれ、人として守り行ふべき道が実現されることに対する希望から生まれたのです。

あなたの国の身体と精神は、このようにして成ったのです。あなたの国の身体は狭き島のように精力が集まり注がれ、あなたの国の心は広く果てしない海のように開けているのです。

【解説】

前節でもありましたように、世界の戦争の歴史は宗教戦争の歴史と言っても過言ではありません。しかし、日本は昔から神道があり、伝来した仏教を受け入れ、開国した現在（大正時代）は西洋の宗教をも含もうとしている、そのような西洋文化では考えられない思想を持っている日本が、各国が盲目的に受け入れてきた宗教による思想を調和し、新たな時代を築くべき時が来ていることをポールリシャルは言っております。なぜそのような事ができたのか、それは

●皇室と言う世界に例のない国の代表を長い歴史の中で尊んできたこと。

●島国であるが故に、他国との距離を一定に保ち、世界のあらゆる国がそれぞれ国家間の戦争の歴史をたどるなかで、日本は国内で武士道や儒学などの人が正しく歩むべき道が追及され、小さな島国であつても、人としての心が広く、智徳の優れた人々が育まれたこと。

●信仰をなしていることによって、世界のあらゆる宗教の過ちを正すことができること。
等を挙げております。

【原文】

燃ゆるが如き情熱と静寂と、厲しき嗟峨崢嶸と秀麗と、精悍と温藉と、斯くの如き対立の互に相連れるもの、これ実に其類を見ざる汝の自然となす。此の一面に於いて恐怖すべく、他面に於いて優美に充ち、常に躍動する力を微笑の裡につつめる自然を愛慕する汝は、其姿に象りて造られたり、汝は此の自然の凜烈と溫柔とを兼ね有し、力に対する豪放の趣味と美に対する典雅の趣味とを兼ね具ふ。凡そ汝に勝る芸術家なく、凡そ汝に勝る戦士なし。

嗚呼日本よ、武士の国よ、武士道の国よ。力と美と、功業の美と其力と、手段の力と目的の莊嚴と、芸術と戦争と、而して戦争と其の唯一の美とを帰一せしむるは洵に汝の任なり。戦争の唯一美とは、利害の為に非ず理想のために貢献すること是れなり。諸々の国、所謂利益の為に理想を犠牲にするは誤れり。彼等如是にして其の至高の利益を犠牲にするものなり。彼等美によりて導かれざるに至れる時、彼等即ち迷へるなり。総じて彼等を見よ。彼等の前途を見よ。而して彼等の蹤を追ふこと勿れ。

【現代訳】

燃えるような情熱と静寂、他よりも秀でたとても険峻な山々と深い谷、勇ましく鋭い気性と温かく広い心、このように互いに対立しながらも一緒であるものが、実に他に例を見ないあなたの国の自然の姿なのです。一面から見ると恐怖を抱きますが、もう一つの面からみるとしとやかで美しく、常に生き生きと活動する力をほほえみの中に包む自然を愛して慕うあなたの国は、その姿にかたどられて造られたのです、あなたの国は、このような自然の寒気の厳しさとおだやかな優しさを兼ねて有し、度量が大

きくて大胆なおもむきのある力と正しく整い上品な美を兼ね備えているのです。おおよそあなたの国に勝る芸術家はおらず、おおよそあなたの国に勝る戦士はおりません。ああ日本よ、武士の国よ、武士道の国よ。力と美と、功績の著しくある美とその力と、物事を実現していく力と、目的の厳かで立派なことと、芸術と戦争と、そして戦争とその唯一の美とを一つに帰着させるのはまことにあなたの国の任せられた役目なのです。戦争の唯一の美とは、利害の為ではなく理想の為に貢献することにあるのです。もろもろの国は、所詮、己の利益の為に理想を犠牲にしていますが、それは誤りなのです。彼らはこのように、そのこの上ない利益を犠牲にしているのです。彼らが美によって導かれることがないとわかった時、彼らはとりもなおさず迷うのであります。彼らの全体を見て下さい。彼らの行く先を見て下さい。そして彼らの跡を追うことはしないで下さい。

【解説】

日本は険峻な山々と深い谷という天然環境に恵まれ、自然豊かな土地柄であり、またそこで育った日本人は、おおらかでやさしくまた厳しさを持っている人々であり、日本に勝る人達はいないということをポールリシャールは言っております。

日本は石油・石炭・天然ガスなどの鉱物資源には恵まれておりませんが、自然の恩恵と自然への感謝によって成り立ってきた国であり、資源がないからと言って決して貧しい国ではありません。

世界各国の戦争は利己主義による戦争ですが、もし日本が戦争をするのであれば日本は理想を掲げて戦争しなければならないと言っております。

【原文】

未だ嘗て敗衄の屈辱を嘗めざる国よ。若し汝にして真個に金甌無缺の名に値せんと欲せば、理想のための戦士たれ、将来のための戦士たれ。之が為に戦ふものは敗るることなし。理想は将来なり。如何なる国民も其の理想を実現する以外に使命なく、また其の以外に国體なし。汝若し萬国の首たらんと欲すれば、その戦士をして至高なる理想のための戦士たらしめよ。汝若し国運をして無窮ならしめんと欲すれば、最も無窮なる大業に参与せよ、将来の世界と聯盟せよ。蓋し将来の世界は己れに奉ずるものに奉ずべし、多く奉ずる者には多く、少しく奉ずる者には少しく奉ぜん。而して現在の世界は、その至高の理想に奉ずる者に向つて、己が全力を与ふべし。

国威の発揚に志せよ。但し国威の一半は力より、他の一半は精神より来るを要す。力を所有せよ、而して力に所有せらるゝ勿れ。力が隠し有てる悪魔に備へよ。汝は西欧の武器を採れり。希くは之を純化せよ。之をして無敵たらしめんが為には其の純潔を保て。卑しき利欲の泥をして之を汚さしむる勿れ。之を些々たる利害の為に用ひず

して、高貴なる理想の為に用ひよ。之をして汝の體軀を蔽はしめて、其の精神を蔽はしむること勿れ。

【現代訳】

今までに一度も敗北の屈辱を嘗めていない国。もし、あなたの国がまことに強固で外国の侵略や侮りを受けずに尊厳を保つ国という名を欲するのであれば、理想の為の戦士でいて欲しい、将来の為の戦士でいて欲しい。これの為に戦う者は敗れることはありません。理想は将来なのです。いかなる国民もその理想を実現する以外に使命は無く、またそれ以外の国体も無いのです。あなたの国がもし世界の国々の首領でありたいと思うのであれば、もつとも果てしない大業に加わり、将来の世界と行動を共にする誓いを結んで下さい。おおよそ将来の世界は己（日本）に謹んで勤めるものはいやうやく受け、多く勤めるものには多く、少なく勤めるものには少なく受けられよ。そして、現在の世界は、そのこの上ない理想に謹んで勤めるものに向かつて、己（日本）が全力を与えて下さい。国威を奮い立たせることを志して下さい。但し、国威の半分は力を、他の半分は精神から来ることが肝心です。力（軍事力）を所有して下さい、しかしながら力（軍事力）に所有されないで下さい。力（軍事力）が隠し持っている悪魔に備えて下さい。あなたの国は西洋の武器を採用しました。願わくばこれを純粋なものにして下さい。これによって（西洋の武器）無敵であるためには、穢れなく心を清らかに保って下さい。利益を得ようとするいやしい欲望の泥によって穢れなさい。これでもってあなたの身体を覆い、その精神を覆うこと無いようにして下さい。

【解説】

第一次世界大戦が終わった当時、世界の列強国は覇権を争い駆け引きをしておりました。日本は日露戦争という過去最大の戦争を終えてヨーロッパやアメリカと対等の国として認識され、明治維新より続いていた「富国強兵」政策がひと段落しました。

ヨーロッパ諸国は、アジアに植民地を求めその覇権争いも第一次世界大戦へつながりましたが、それがひと段落して世界的な戦争を起こしてはならないという指針のもと国際連盟が設立されましたが、国際連盟は列強国の優位な場ではなく、人種平等を提案した日本は孤立しかねない状況に陥ります。アジア諸国は相変わらずヨーロッパ諸国の植民地でしかなく、アジアの人々は自由が奪われた状態でした。

リシャールはそのような状況に対して、アジアの一国である日本にアジアのために立つよう促しているのです。

【原文】

汝の敵が自ら識らずして汝に与へつゝある教訓を覚え。彼れは其の力を以て精神を支配し、之がために其の精神を盲目ならしめたり。彼等は其力を精神と誤れり。彼に倣ふこと勿れ。不斷に天來の光をして汝の武器と劍とを司らしめよ。汝の劍を通じて汝の精神を耀かしめよ。汝は敵に勝てりと言ふ。されど汝は啻に外面に於て此敵を其の城砦に破れるのみに非ず、更に敢然として之を自己の内面に於て克服せざるべからず。若し敵の過てる所のもの、汝の精神を侵し、汝の精神的城砦を占領しなば、汝即ち敗者たるべし。此の見えざる敵に備へよ、此の敵最も恐るべし。假令汝にして諸々の都市を征服すとも、若し汝の魂にして征服者の心を魅する奈落の眩惑に陥らば、果して何の利する所ぞ。大洋の兒よ、奈落の兒となること勿れ。

【現代訳】

あなたの国の敵が、自ら知らないうちにあなたの国に与える教訓を覚えて下さい。敵となる国は力(軍事力)で精神を支配し、このためにその精神を他のものが目に入らず、理性的な判断ができないになっております。敵となる国はその力と精神を誤りました。そのような国手本としてはなりません。絶え間ない天から恵まれた光をもつてして、あなたの国の武器と劍で役目としてその任にあたって欲しい。あなたの劍を通じてあなたの国の精神を輝かして下さい。あなたの国は敵に勝つたと云うかもしれない。しかし、あなたの国はただ外面に於いて、この敵をその城砦でもって敗れるだけではありません、更に勇ましくこれを自己の内面に於いて克服して下さい。もし敵の過(あやま)つたものにより、あなたの国の精神が侵され、あなたの国の精神的城砦を占領するならば、あなたの国は言いかえれば敗者となるでしょう。この見えない敵に備えて下さい、この敵は最も恐ろしいのであります。万が一、あなたの国がもろもろの都市を征服しても、もしあなたの魂が地獄の幻惑に陥り征服者としての心に魅せられれば、果たして何の利益となるでしょう。大きく広い海の児たちよ、地獄の児となつてはなりません。

【解説】

強大な武力を持つと自ら奢り、真の目的を達成することを忘れてしまう危険があることをリシャルは危惧しております。日本人の優れた広い心で以て、他国を侵略するのではなく自由を開放しその日本人が培ってきた人の道を広めることが大切であり、強大な軍事力で遠征した国々の人々を圧してしまえば、これまでヨーロッパやアメリカなどが行ってきた侵略と何ら変わりはなく、それは返って日本の恥をさらしてしまふことを言っております。

物資や資源が限られている日本が、強大な国へ戦争を挑み、真の勝利を手に入れるには人心を大切しなければならぬことをリシャルは言っております。

【原文】

汝の島は至深処より隆起し來れる高処なり。汝の魂も亦復是の如し。されば再び之をして低落せしむる勿れ。低処より向上し來れるものをして、断じて再び向下せしむる勿れ。吾等を繞る自然は吾等に内在するものゝ象徴に過ぎず。されば誰か其等の至深処が再び汝の脚下に打開せられざるを保せんや。大地は高遠なる希望を汝に属す。大地が汝の脚下に震撼する時、大地が汝に向つて語らんとするところを覚え。大地をして失望せしむる勿れ。平時たると戦時たるとを問はず、汝の魂をして高処に在らしめよ。

【現代訳】

あなたの国の島（日本）は、深い所から隆起した高所なのです。あなた方の魂もまたもにかえりこのように同じなのです。だから再びこのようにして下落してはなりません。低い所から向上して来るものを、断じて再び下に向かわせてなりません。私達を囲む自然（私達の身の回りで起こる出来事）は、私達に内在するものの象徴に過ぎません。だから誰かそれらの深い所から再びあなたの足元にこれるように大きく開いてなければなりません。大地（自然）は、高く遠い希望をあなたの国に託しているのです。大地があなた方の足元で震え、人を震え上がらすとき、大地があなた方に向かつて語ろうとしていることを悟って欲しい。大地（自然）を失望させてはなりません。平和な時であろうと戦時であろうと時を問わずして、あなた方の魂は高所にいるようしなさい。

【解説】

江戸時代、日本は長い期間鎖国をして日本文化を育成してきました。武士道が熟成され、儒学や朱子学など様々な学問と藩校・寺子屋に代表される教育を通して、人心の向上が図られ、資源がないにも拘らず豊富な自然の恩恵とその自然に対する義務を日本人は果たしてきました。その品位の高い日本であるが故に奢らず、日本に教えを請うものを心から受け入れ、またその道を閉ざしてはならないことをリチャールは言っております。日本は他国に比べて非常に地震が頻繁に起きる国です。歴史を振り返ると日本が大きな地震に見舞われた時、その頃の日本は世情が荒れており品位が低下している状況が読み取れます。

先の東日本大震災では、石原東京都知事が「津波で多くの犠牲者が出たが、その波で日本人の我欲を洗い流さなければならぬ」と警鐘を鳴らしました。マスコミはこぞって石原都知事の言わんとした趣旨と違うことを取り上げ、石原都知事を責めました。マスコミの罪は重大です。石原都知事の言わんとしたことをこういう時こそ解説者や学者が言うべきものを、視聴率や目先の批判を恐れ、また国民を間違った方向に導きました。

大地の震え（地震）は天然自然が偶然に起こしたのではなく、日本人に対する警鐘を伝えていることをリチャールはわずか数年の滞在で感じ取ったのです。

なぜ地震が警鐘なのかというと、昔から言われている「天災は忘れた頃にやってくる（寺田虎彦）」の言葉に意味が込められていると思います。

【原文】

戦争が眩惑を有するが如く、平和も亦然り。而も平和の眩惑は更に低処よりす。強国日本よ、汝は更に強大ならんがために今や強兵に次ぐに富国を以てす。是れ止むことを得ざるなり。蓋し力の一半は武力より來り、他の一半は富力よりす。汝は劍戟の光と力とに加ふるに、黄金の力と光を以てす。汝は其の劍戟を護るに黄金を以てするものなり。此の黄金も亦無垢なるを要す。汝は黄金を得んが為に、身を卑賤なるものに屈せざる可かず。されど汝の魂をして這裡に停滞せしむる勿れ。富の主人公となりて其の奴隸となること勿れ。富の裡にも亦最も醜惡なる他の惡魔あり。力の惡魔は往々にして国民の魂を盲目ならしめ、黄金の惡魔は常に国民の魂を萎靡せしむ。されば偽善なる清教主義の聲に聴くこと勿れ。そは日本に望むに、黄金以外のものを求むべきことを以てして、実は自ら此の惡魔に奉仕するものなり。祖宗の精神を喚起せよ、唯だ之のみ能く物質的所有に本来の意義を賦与し、之を創造する勞仇の威嚴、之を利用する事業の威嚴を恢復す。蓋し黄金は或は一切の不淨を伴ふべく、或は一切の美を反映せしめ得べし。一切の醜惡は唯だ心情よりす。陋劣なる心情には萬物悉く陋劣なり。而も宇宙の一物として、光明に依りて光被せられざるはなし。

【現代訳】

戦争が目をくらまして正しい判断ができなくなることに、平和もまた同じであります。しかも平和の時は更にひどいものです。強国な日本よ、あなたの国は更に強大になる為に、今や強兵に続き経済力にも力を入れています。これを止めることは出来ません。確かに力の半分は武力によるもので、他の半分は経済力からきます。あなたの国は劍と矛の光と力に加えて、黄金の力と光を持ち合わせています。あなたの国はその劍と矛を守るのに黄金を以て守るのです。この黄金もまた汚れなく純真でなければなりません。あなた方は黄金を得るために、身を地位や身分が低いものに屈してはなりません。しかしあなた方の魂をこのうちに停滞させることはしないで下さい。富の主人公となりその富の奴隸とならないで下さい。富の内にもまた最も醜惡な他の惡魔がいます。力の惡魔は往々にして国民の魂を盲目にさせ、黄金の惡魔は常に国民の魂を衰えさせます。だからうわべをうまく善人らしく見せかける清教主義の聲を聴いてはなりません。それ(清教主義)は日本に、黄金以外のものを求めることを望み、実は自らこの惡魔(黄金の惡魔)に奉仕するものです。歴代の君主の精神を呼び覚ませ、ただこれのみが十分に物質的なものを所有することの本来の価値を分け与え、これを創造する労働の威嚴、これを使用する事業の威嚴をもとの状態にもとの状態に戻してくれます。まさしく黄金はあわよくば全ての不淨を伴い、あわよくば全ての美を反映しようとしません。全ての醜惡はただ心の中にある思いや感情から出るので。いやしく輕蔑すべき思いや感情には、万物が悉く卑劣になります。しかしも宇宙の一つのものとして、明るい光によって、光に覆われることはありません。

【解説】

当時は日露戦争が終わり戦争には勝ったものの各国からの戦争遂行のための借金をしており、日本は経済的に不安定でした。経済力の強化を図る上で黄金を保持する

ようリシヤールは促しております。リシヤールが示している日本の大業にとって黄金は必要なものでありますが、黄金（金）は物の価値として充分なものです。心が奪われやすく、場合によっては黄金を得るために戦争をしたり弱者をいじめたり、人の道を外したり、私利私欲に走ったりなどその危険性をうったえております。

日本は戦後約 70 年近く経ちましたが、「平和ボケ」していると言われてから長い期間が経過しております。政治家・官僚・企業などは国益よりも党の利益・政治家の利益・官僚の利益・企業の利益を優先し、国民から集めた税金を正直私利私欲で使っているのではないのでしょうか？

あの焼け野原から復興した日本人が、今は日本人の心を忘れ、目先の利益に走り、国の行く末が悲惨な状況を迎えつつあることにも気付いておりません。

リシヤールが危惧したものが現実となつて現れている今の日本をリシヤールはどのように見るのでしょうか？

【原文】

既に豊かに此の力と此の光明とあり、また属国の景仰する莊嚴と、萬国の見ざるものとを賦与せられたり。さらば大地の兒よ、精神の兒よ。現在の世界に於て其の大業を成就するに、汝は他にまた何ものをか要せん。その大業は汝を待てり。そは汝の歴史の如く純一にして偉大に、汝の使命の如く絶倫なり。そは汝の使命を明らかにす。諸国汝を呼んで矜高となす。而も斯くの如く非難する彼等が、却て理由もなくして矜高なるは如何。更に矜高なれ。但しその矜高は彼等の如くなるべからず。萬国に勝りて榮譽ある国よ、其の榮譽を誇らずして、其の榮譽が汝に賦与せる使命を誇れ。若し夫れ汝の使命の偉大なるを告げんが為に非ざりせば、凡そ幾多の榮譽、無比の榮譽は何のためぞ。爾く夥しき福祉と恩恵と寵賜とは何のためぞ、将又一切の過去の祝福と、一切の現在の多望とは何のためぞ。唯だ汝の使命のみ、能く此等の一切を正当とす。

【現代訳】

既に豊かにこの力と明るい光があり、また従属国より仰ぎ慕われるおごそかさや立派さと、あらゆる国が見たことも無いものを分け与えられているのです。それならば大地の兒よ、精神の兒よ。現在の世界に於いてその大業を成就する為に、あなた方は他にまた何ものが必要とするのか。その大業はあなた方を待っているのです。その大業はあなたの国の歴史のように混じりけがなく偉大で、あなたの国の使命のように人並み外れて優れているのです。その大業はあなたの国の使命を明らかにするのです。多くの国々があなた方を読んで誇り高ぶります。しかもこのように避難する彼らが、あべこべに理由もなく慢心するのはいかがなものか。更に誇り高ぶりなさい。但し、その誇り高ぶりは彼らのようになってはなりません。あらゆる国に優れて榮譽ある国よ、その榮譽を誇らずに、その榮譽があなた方に分け与えられた使命を誇って下さい。もし、あなた方がその使命の偉大さを告げる為でなければ、おおよそ数多くの榮譽、無二の榮譽は何のためにあるのでしょうか。そのようにたくさんの安定した生活環境と

恩恵と寵愛のたまものは何の為にあるのか、また全ての過去の祝福をたずさえ、全ての現在の望みは何のためにあるのか。ただあなた方の使命のみ、よくこれ等の全てを道理に適わせるのです。

【解説】

日本はこれまで侵略されたことがなく、一系の天皇を仰ぎ国が存続してきました。その国の存在そのものがヨーロッパやアメリカの奴隷となつて隷属されている国々には模範となる国であり、また日本はその模範を他国に示す必要があるとリチャールは言っております。しかし、極端な言い方をすれば白人は自分たちが優れた人種だと奢り、アジアに於ける隷属支配の国々を広げようとその支配争いをするのでした。

お隣中国はイギリスによってアヘン戦争がおこりどれだけ多くの損害をこうむつたのでしょうか。香港はつい最近までイギリスの支配下でした。また多くの小国がいまだに「〇〇領」という言葉がついて自立できないでおります。支援をするならば誠意を以て支援すればよいのも未だに領国であることを手放しません。

どこの国も自国の利益しか考えていない時代に、日本は世界で初めて人種平等を国際機関である国際連盟にうったえ、それに真つ先に反対したのはアメリカ・イギリスでした。

大東亜戦争は白人と黄色人種の争いと言っても過言ではなく、日露戦争に勝った日本（黄色人種）に対して白人が日本を絞めつけた戦争でもありません。

日本は他国と違い、明治維新前までは他国との大きな戦争は殆どありませんでした。しかし陸続きのアジア・ヨーロッパ・アメリカなどは戦争を繰り返す多くの殺戮と悲惨な状況が繰り返されております。

戦争を好まない国だからこそ、他国を侵略することを好まない国だからこそ、自衛のための戦争であればそれは立たなければならぬことを昔の人達は真剣に考えていたのです。

連合国司令官マッカーサーはその回顧録の中で、日本の戦争は防衛戦争だったと言っております。

また、インドのパール判事も東京裁判において日本と同じような状況に陥れば誰だって戦争を始めると日本の主張に理解を示しております。

そのことを、多くの日本人が知らなければなりません。

【原文】

受けたるものを誇らず、之に酬ゆることを誇れ。亜細亜に負へる者よ、亜細亜の諸国が曾て汝に与へたるものに対して、之を百倍して報謝することを誇れ。今は奴隸なる諸属の賢者より受けたる古き教訓に対して、彼等の自由、彼等の自主を返礼とせよ。彼等曾て美を汝に頒ちたり。今は力を彼等に与へよ。欧羅巴に負へる者よ。徒らに之に似んことを望むものに非ざるを誇れ、其の熱心に対して賞与を受けんとする勤勉なる弟子たるに止まらざるを誇れ。教を欧羅巴に受けたるに対して、欧羅巴をして学ばしむる、生命ある模範たり教訓たれ。世界に負へる者よ、世界の未だ之を有せず、而して之を汝に期待するものを招徠することを誇れ。世々に負へる者よ、汝は受くることに於て既に足れり。今や進んで創始せざる可からず。

何人の想ひも達せざる遼遠の過去より一系直下して、今や汝は何人も知らざれど、而も何者か汝の至深処に於て之を静観する將來の世界の門に立てり。過去を誇る勿れ、現在を誇る勿れ、唯だ將來を誇れ。他国は過去の光栄の重きに堪えずして屈せんとする時、汝の光栄は將來より来る。

さらば萬国の前に將來の光栄を輝かせ。

【現代訳】

受けたものを誇らず、これに酬いることに誇りを持つて下さい。

アジアを背負う者よ、アジアのあらゆる国が全て、あなた方に与えたものに対して、これを百倍にして恩に報い、徳に感謝することに誇りを持つて下さい。今は奴隸となつて従っている賢人より教えられた古き教訓に対して、彼らの自由、彼らの自主を以て返礼として下さい。彼らが全て美をあなた方に分配したのです。今は力を彼らに与えて下さい。

ヨーロッパを背負う者よ、むなくこれに似ることを望むものではないことを誇つて下さい、その熱心に対して褒美を受けようとする勤勉な弟子でいようとすることに止まらないことを誇つて下さい。教えをヨーロッパから受けたことに対して、ヨーロッパがかえつて学ぶ、生命ある模範であり教訓となつて欲しい。

世界を背負う者よ、世界の国々が未だにこれを有することが出来ず、そしてこれをあなた方に期待するものが招かれ来ることを誇つて下さい。

累世を背負う者よ、あなた方は受けることに於いて既に足りております。今や進んで新たに物事を始めなければなりません。

何人もの思いが達せる事の出来ないはるか遠い過去から一系にまっすぐ降りてきて、今やあなた方は何人いるか知りませんが、何者かがあなた方の深き所に至つてこれを静観する將來の世界の門に立つております。過去を誇つてはなりません、現在を誇つてはなりません、將來を誇つて下さい。他国が過去の栄光の重さに耐えかね、それに屈しようとする時、あなたの国の栄光は將來より来るのです。

それならばあらゆる国の前に、將來の栄光を輝かせられます。

【解説】

リシャールはアジアの精神とヨーロッパの文明を取り入れ自分のものとした日本

を高く評価しました。アジアの精神とは武士道に他なりません。江戸時代は特に鎖国をしておりましたので他国からの文化が入ることが少なく、国内で文化が熟成されました。江戸時代、昌平坂学問所、藩校や寺子屋によって儒学や朱子学が学ばれ道徳や道徳など人としての正しい行いの教育が国内に広く行きわたりました。

「子いわく…」という言葉をよく聞きますが、この「子」とは孔子を表しており、孔子は中国人で儒教や儒学の発祥させた人であります。また、南宋（中国）の朱熹によって再構築された儒教の新しい学問体系で朱子学があり、これもまた広く学問として伝わりました。

武士道は、その体系が中国より伝来された学問の影響を多く受けており、それを熟成させて日本人は人としてあるべき大切なことを学んできたのです。

また、明治維新後「振り向けば文明開化の音がする」という言葉のように、西欧からの文明が多く取り入れら得ました。新橋から横浜には汽車が走り、横浜にはガスの街灯が灯り、新しい技術が多く取り入れられたのでした。

一系の天皇を奉じ、時代を歩んできた日本は既に国内が統一されその民族が仁徳ある世界の人々の模範になるような民族であり、それは将来に対して誇りを持てる民族であることをリチャールは言っております。

【原文】

萬国の運命決せられ、日本の運命また決せられつゝある現前の非常時に際して、何事ぞ汝は逡巡する。萬国の進路相会し、萬国の思想悉く相濁るゝ此の十字路に立ちて、何事ぞ汝は拱手する。汝は孰れが我が道なるかに迷へり。而して心を汝に用ふる者も、亦汝が孰れの道を探るかを迷ふ。相反する希望、日本を囲んで相争へり。一を欧羅巴の希望、他を亜細亜の希望となす。而して汝は兩者の間に分たれたるを感ず。汝之を知らず、汝は之を知らずと信ず。されど汝に内在して汝を監視し且統御する所のもの能く之を知れり。而して汝は準備しつゝあり。

【現代訳】

あらゆる国の運命が決められ、日本の運命がまた決められつつある目の前の非常時に際して、あなた方は何故ためらっているのでしょうか。あらゆる国がその進むべき道に互いに出会い、あらゆる国の思想が悉く互いに濁っているこの十字路に立って、あなた方は何故手をつかねて何もしないでいるのでしょうか。あなた方はどれが我が道なのか迷っておられます。そして、心をあなた方に用いる者も、またあなた方がどの道を探ろうとしているのか迷っているのです。相反する希望は、日本を囲んで相争っております。一つをヨーロッパの希望、その他をアジアの希望としています。そして、あなた方は兩者の間に隔たりを感じます。あなた方はこれを知らず、あなた方はこれを知らないと信じているのです。しかしあなた方に内在するものが自身を監視しかつ全体をまとめて支配する所のものがよくこれを知っております。そして、あなた方は準備をしつつあります。

【解説】

ポリーシャル夫妻が日本に来たのは大正5年（1916年）のことです。既に大1次世界大戦がはじまり3年目の年で、ヨーロッパでは戦火が繰り広げられておりました。日本は日英同盟に基づき、連合国として参戦しアジア内でのドイツの権益のある地を侵攻しております。しかし、日本は連合国として参戦したもののその意義を見いだせずにはいたるではないでしょうか？

第1次世界大戦後に国際連盟が発足し、そこで人種平等を日本は訴えておりますがイギリス・アメリカの反対にあいます。

大東亜戦争は、この第1次世界大戦後の各国の状況が様々に絡まり、日本は孤立せざるを得ない状況に陥ったのであります。

【原文】

幽遠神秘にして測知す可からざる皇天の大命に対し、如何なる国民か曾て汝の如く心を用ひたるものある。今正に断末魔の境に悶えつゝある諸国に於てだに、汝に於けるが如き力の集注を見ず。彼等今や新に生れんが為に死せざるべからず。されど彼等が死物狂の力すら、尚且汝が覚悟の力に及ばず。総じて汝に在るものは、筋肉と神経との緊張、意力の鍛錬、活動研究に対する熱情、心身の凜烈なり。汝の民は死を軽んじ、又無為の生を軽んず。汝に於ては学生すら時に其の研究で熱して、無知の恥に堪えんよりは択んで死に就くものあり。日々汝の戦士は上下挙つて概にその心情に於て戦ひ、且つ喜んで汝のために死せんことを夢む。心情は理智に先ちて知り、夢は未だ心裡に現はれざるものを豫現す。国民は豫め当に来るべきものを告げらる。現在は物言はざるも、将来は国民に前兆を示す。これ汝が其の進路尚ほ未だ決せざるに、而も駿馬が主君の蹀音を聴きて凜然として鬣を振ふが如きものある所以なり。汝は主君の手の既に觸れたるを感じず。戦の準備成れる国民よ、此の主君は神の戦士なり。汝の戦ひをして日本に内在する神性に恥ぢざるものたらしめよ。汝は戦はざるべからず。

【現代訳】

奥深くはるかな人間の知恵では計り知れない天をつかさどる神様の命に対して、かつていかなる国民が、あなた方のように心を用いたでありましょうか。いままさに、臨終の境に悶えつつあるあらゆる国に於いてでも、あなた方のように力を集中していることは見られません。彼らは今や新しく生まれ変わる為に死のうとしております。しかし、彼らの死に物狂いの力すら、あなた方の覚悟には及びません。大概あなた方にあるものは、筋肉と神経の緊張、精神力の鍛錬、活動研究に対する情熱、心身に対する厳しさであります。あなた方の民は死を軽くし、また何もしないで生きて行くことを軽く見ます。あなたの方の国に於いては学生すら時にその研究に熱中して、知らない事の恥に耐えるよりは自ら死を選ぶ者もいるのです。日々あなた方の国の戦士は上下みんなであらましその心情で以て戦い、かつあなたの方の国(自分の国)の為に喜んで死ぬことを夢見ているのです。心の中にある思いや感情は理性と知恵に先だつて知り、夢は未だに心の中に現れていない物を予言するのです。国民はあらかじめまさに来るべきものを知らされるのです。現在は物を言わなくても、将来は国民に前兆を示します。このことはあなたの国がその進路をなお未だに決めかねてはいるのですが、脚の早い優れた馬が主君の足跡を聴いて勇ましくたてがみを振ることのようです。あなた方は主君の手が既に触れていることを感じているのです。戦の準備が出来ている国よ、この主君は神の戦士です。あなた方の戦いをして、日本に内在する神としての性質に恥じるものはない真の姿を見せて下さい。あなた方は戦わなければなりません。

【解説】

当時の日本は、江戸時代の幕藩体制が終わり明治維新を迎え、国内を統一する為、「王政復古」「五箇条の御誓文の発布」「廃藩置県」「版籍奉還」「大日本帝国憲法発布」「帝国議会の発足」などが行われ、それまでの徳川幕府を中心とした政治に対して、天

皇を中心とした政治に切り替わりました。

このとき日本の国の成り立ちやその国政の在り方が改めて世に出され、「三種の神器・三大の神勅」や「教育勅語」が市民に普及され、また「神仏分離」などが行われました。

いにしえより日本は「八百万の神様の鎮まれる国」と言われ、日本全国には数多くの神社があり、それを改めて見直した時期でもありました。「三種の神器・三大の神勅」には日本人として大切なことが記載され、それをリシャールは「天をつかさどる神様の命」としてその目にとどめたのであります。

世界は侵略と自国の権利の拡大という戦争が行われ、各国が道徳や道義を失い権利の主張し、リシャールはそれが最後のあがきだと言っております。

「あなた方の民は死を軽くし、また何もしないで生きて行くことを軽く見ます。」これは死を軽んでいるのではなく、「恥」という文化が成り立っており「恥」をかくならば「死」を選ぶという武士道に基づく日本固有の考えで、そのことを言っております。

その代名詞として「虎は死して皮を残し、人は死して名を残す」決して死は無駄ではなく後世に受け継がれていく、そんな生き方が人として素晴らしい生き方であるという当時の日本人の行き様をリシャールは見たのでした。

当時の日本人は一般市民までもが「国の為」という気概を持っており、その気概が日本人の宝であり、日本と言う国の存在を強く表しているのだということをリシャールは言っております。

戦争という最終的手段は決して良い手段ではないのですが、それを否定するのではなく、当時の世界情勢と当時の常識からみれば日本が取るべき手段が最終的には戦争しかなかったということを私達は改めて知るべきだと思います。

江戸時代に私たちがタイムスリップしたら江戸時代の人達は何というでしょう？

渡部昇一著書「かくて歴史は始まる」の中で、

「歴史を見る上で大切なことは、現在の常識で当てはめて歴史をみてはならない。当時の常識であてはめて歴史を見なければならぬ」というようなことが記載されておりました。

戦争という最終手段を取らざるを得なかった先人、それを現在の常識で肯定否定するのは歴史に対する冒瀆ではないでしょうか。大切なのは何故そのようなことが起こり、何故しなければならなかったのかを見つめることで、歴史に隠された真実を見ることができないのでしょうか？

【原文】

何者と戦ふと問ふか。苟くも汝にして何が為に戦ふかの大義を知らば、敵の何者たるかは之を問ふを須ひざるなり。汝は戦ふべき敵に先ちて、奉ずべき大義を知らざる可からず。是れ深甚の意義の存する所なり。この大義の敵は汝の敵たる可し。然らば敵は自ら其の姿を現さん。若し汝にして爾餘の途によりて其の敵を知らんと欲すれば即ち誤らん。誰か次の瞬間に於て、孰れの国が彼等の敵国たり又は友邦たるを知り得るものぞ。試みに西欧諸国の荒誕なる豫想が、如何なる誤算に陥り、如何なる否認に遭へるかを見よ。現下の大戰に於て、一国として外観の為に欺かれず、其の誤算を悔いざるものあるか。而も是れ理の当に然る可き処なり。彼等の意識、彼等の見地は、偏に盲目にして変化常なき利害の念に過ぎず。されば彼等如何ぞ明日の運命を知らん。如何ぞ其の親善と反目との将来を知らん、如何ぞ其の投ぜられたる戦禍の帰趨を知らん。彼等その目的を誤れど、彼等の恣まゝなる意志を司る一個の意志あり。彼等総て之を無視すれど、彼等の恣まゝなる思想を司る一個の思想あり。そは総て彼等を導きて、何れの国も到るを欲せざる所に之を導く。何が故ぞ、また何に向つてぞ。一国として之を知るものなし。

汝能く之を知る。萬国を貫く此の見えざる意志、世界と其の運命とを支配する此の思想に留意せよ。

【現代訳】

何者と戦うと問われますか。かりそめにもあなた方が何の為に戦うかの大義を知らなければ、敵が何者なのかこれを用いることもできません。あなた方は戦うべき敵より先に、奉じる大義を知らなければなりません。これは奥深い意義のある所なのです。この大義の敵は、あなたの方の敵でもあるべきです。それならば敵は自らその姿を現すでしょう。もしあなた方がそれ以外の道筋でその敵を知ろうとすれば、すなわち誤ります。誰が次の瞬間に、いずれの国が彼らの敵国でまたは互いに親しい国であることを知りましょうか。試みに西洋諸国のおおげさでまったくでたらめな予想が、如何なる誤算に陥り、如何なる打ち消しに遭うか見てみて下さい。現在の大戦に於いて、一国として外観の為に欺かれず、悔いていない国などありません。しかもこれは理屈からいっても当然であります。彼らの意識、彼らの見地は、ひとえに盲目で常に化する損得の予想に過ぎません。だから彼らはどうして明日の運命を知ることが出来るのでしょうか。どうしてその互いを知り合つて仲良くしたり仲が悪くなったりする将来のことを知ることが出来るのでしょうか、どうしてその投じられた戦争による被害の行き着くところを知ることが出来るのでしょうか。彼らはその目的を誤つても、彼らのほしいままの意思をつかさどる一個の意思があるのです。それはすべて彼らを導いて、いずれの国も目的地と欲していない所へ導きます。何がそうさせているのか、また何に向かつてなのか。一国としてこれを知るものはありません。

あなた方はこれをよく知っております。あらゆる国を貫くこの見えない意思、世界とその運命とを支配するこの意思に心をとどめて気を付けて下さい。

【解説】

ヨーロッパ諸国の殆どは、領土の拡大や利権の拡大など目先の利益によって他国と結んだり敵対したりして、戦争をしております。目先であるが故にどの国とどの国が結び敵対するかわかなる情報で以て測っても、予測ができない状況を生んでおります。

大東亜戦争時にヤルタ会談で同じテーブルについたアメリカ・イギリス・ソ連が第2次世界大戦後反目し、冷戦を迎えたのは記憶に新しいと思います。この事実をもつてしても目先の利益だけに動いて戦争していることは確かです。

しかし、日本は隷属させられている国を開放し、自由にするとという大義のもと戦争を行いました。その後、終戦を迎え日本は確かにぼろぼろになりましたが、アジア諸国がヨーロッパやアメリカの植民地から独立を果たしました。

それぞれの国が独立を果たす上で、日本が行ったことに感謝している国がどれだけあるのか、当の日本人が知りません。インドネシアの元首相マハティール氏は「Lock East」政策を掲げ、日本に見習えとある時まで日本の素晴らしさをその政策に取り入れました。

インドでは、独立の立役者の一人「スバス・チャンドラ・ボース」氏の壁画が今でもインドの国会議事堂の正面にはガンディー、ジャワハルラール・ネルーと共に肖像画が描かれております。このスバス・チャンドラ・ボース氏は日本の支援を得てインドを独立させるために義勇軍を立ち上げ、インパール作戦が実行されました。

インパール作戦では約6000人のインド人義勇軍と約9万人の日本兵がインド独立のために戦いましたが、作戦は失敗に終わり多くの日本兵がなくなりました。

その日本兵の行いは、インドでは感謝で以て迎えられているとある本に書いておりました。

戦争によって敵も味方も大勢の方が亡くなり、その悲惨さは想像を絶します。

しかし、何ら真実を伝えず真つ向から大東亜戦争を否定し、肝心なことを教えずに教育をしている戦後の日本教育の在り方は、かえって歴史を軽視し、何故戦争が起ってしまったのかの冷静な判断を養わせることができないう日本人を育て、今後の日本の行く末を担う若い人達を盲目にして仕舞っていると思います。

自分の国に誇りを感じていない国などありません。何故なら自分で自分を否定して仕舞うからです。自らそうするのではなく、義務教育という公の機関を使ってそのような教育した先生方の罪は非常に重いと思います。

【原文】

そは萬国の間に仇きつゝあり。之を認めざるも萬国みな其の命に従ひ、空しき榮華を夢みて之を識らざれども、萬国皆其の定むる目標に向つて進む。此のもの能く萬国の民を治む。萬国の民思へらく、吾等自ら治むと。而も此のもの能く己れに事ふるを欲せざる民を奴隷となし、且つ能く自ら信じて此の大法の企図を破れりとする民をだに奴隷となす。そは利己を主とする萬国の心算を利用し、其の己れの目的に資するものを助け、背くものを破る。或は此の大法がその心を集注するに障礙となるものあり。然る時は則ち之を用ひたる後に亡ぼし去る。一切はその好悪に関せず悉く大法の器具なり。汝は此の神業の参与者たれ、此の思想の股肱たれ。

【現代訳】

それはあらゆる国の間に敵対する相手があります。これを認めないにしてもあらゆる国はみなその命令に従い、空しき榮華に夢をみてこれを知らなくても、あらゆる国はみなその定まる目標に向かって進みます。このものはよくあらゆる国の民を治めます。万国の民は思うでしょう、私達は自ら治めていると。しかもこのものよく己に事を成そうとする民を奴隷にし、かつよく自らを信じてこの敵しい掟のくわだてを破ろうとする民をまた奴隷にします。それは自分の利益だけを考え他人のことを考えないということを重要とする万国の心づもりを利用し、その己の目的に助けとなるものを助け、背くものを破ります。あるいはこの敵しい掟がその心を集中するに障害となるものがあります。そのような時はすなわちこれを用いた後に滅ぼします。全てはその良し悪しに関係なくことごとく敵しい掟の器具となるのです。あなた方はこのかみわぎの参与者であつて欲しい、この思想の腹心であつて欲しい。

【解説】

国はその国の法律や仕組みなどの形式的なものだけではなく、最終的には人々の心でなりつたてております。目先の利益に走れば目先に、長期的な視野にたつて国造りをすれば長期的に、これは企業であっても同じことではないでしょうか？先日来日されたブータン国王夫妻によってブータンと言う国が注目されました。

「GNP（国民総生産）」ならぬ「GNH（国民総幸福度）」ブータンと言う国で推し進めている政策は経済発展よりも人の道の充実（道德の徹底）でした。

昔の日本もどちらかというとならぬGNHだったのでは。

現在の目先に走っている日本より、まだブータンと言う国の方がリシャルの言っている理想に近いかもしれません。しかし、昔の日本は素晴らしい国であったことこの人文でも想像できます。

その薫陶はまだ死んでおりません。

【原文】

萬国を建設したるものは洵に此の大法なり。そは塵埃の間より、混沌たる要素の裡より、萬国を育成し来れり。萬世を通じて争闘によつて諸国を混じ、言語血縁を異にする家族、部族、諸州、諸国を結び、総じて彼等の無力なる自由を、偉大なる世界の協同團體、その指導者の権力と統一とに献ぜしめたるは洵に此の大法なり。而して新たな進展を成就せんがために、従来の労作を蹂躪し去りて、更に完全なる事業の大策を劃し、萬国の団體的利己主義並に其の無政府的権力を、変更改善の坩堝に投ずるものも、亦実に此の大法に外ならざるなり。蓋し大法は一切大小諸国の国境を超出して更に偉大なる存在を創造せんことを希望す。今や恐るべき戦乱は諸国を駆りて鉄火の間に見えしむ。而も是れ実に大法が諸国の好悪に関せず、彼等をして来るべき大團體、大聯盟、相対立すれども従来より更に大規模なる超国家群の形成に進ましめつゝあるものなることを悟れ。大法は此の統一の最後の連鎖を鑄つゝあり。蓋し世界の希望、その思想、その至高の意志の旺向する所は、此の来るべき一切の統一、並に此の統一より来る平和に外ならざるが故なり。

【現代訳】

あらゆる国を建設したのはまことにこの厳しい掟であります。それは世の中のもろもろの汚れたものの中から、大昔に天と地がまだわかれていない時から、万国が育成されてきました。限りなく何代も続く永い世を通じて争いや戦いによって諸国をまじわらせ、言語と血縁が異なる家族、部族、あちこちの州、諸国を結び、概して彼らの無力な自由を、偉大な世界の共同団体、その指導者の権力と統一とに貢献せしめているのはまことにこの厳しい掟なのです。そして新たな進展を成し遂げようとする為に、これまでの労作を踏みにじり去って、更に完全な事業を画策し、あらゆる国の団體的利己主義ならびにその無政府的な権力を、変更改善のつぼに投じるものも、また実にこの厳しい掟に外なりません。まさしく厳しい掟は全ての大小もろもろの国の国境をぬきんで更に偉大な存在を創造することを望んでおります。今や恐るべき戦乱は諸国を追い立てて刀剣と鉄砲の間に見えるのです。しかもこれは実に厳しい掟が諸国の良し悪しに関係せず、彼らによつて来るべき大団体、大連盟、互いに対立していてもこれまでより更に大規模な超国家群の形成に進めようとしているものであることを悟つて下さい。厳しい掟はこの統一の最後の連鎖をとるかすつつあります。まさしく世界の希望、その思想、その最高の意思の盛んに向かう所は、この来るべき全ての統一、並びにこの統一より来る平和に外ならないからであります。

【解説】

リシャルは世界の国々が大きな規模で統一されるのではないかと語っております。それは国連のようなものではなく、何かの掟（決まりごと）によって成されているのだと。

国同士の大きな戦争は、互いに同盟したり敵対したりでその影響はヨーロッパのみではなく、世界に波及するようになりました。それはヨーロッパ諸国やアメリカが、

アジアやアフリカなどの隷属させた地域から人を兵士として集め、互いに戦ったからであります。お互いの権益の為だけに戦った挙句、第2次世界大戦という戦争を経験しても、「冷戦」という互いの主張の違いにより生じた見えない戦争は、記憶に新しいと思います。

そして、今度は中国が台頭してきました。世界で一番人口の多い中国が、自国の利益・人民の利益のみを優先して近海で不穏な動きをしております。また、華僑と呼ばれる人たちは、ヨーロッパ諸国に代わりアジアの人達を経済的に隷属させ、その資本を牛耳ろうとしております。

決して悪い人達だけではないですが、中国人は人の道を外し、道徳が通用せず、世界でも嫌われているということ公表するメディアが多いのも事実です。リシャルルのように素晴らしい理想があっても、その理想の敵になる人達が多くいることは、認識しなければならぬと思います。

日本が培ってきた「武士道」や「道徳」は他国に秀でてすばらしいものであるからこそ、日本人が手本を見せながら、相手が駆け引きしてくるのであれば、その駆け引きには負けないように心を作っていかなければならないのではないのでしょうか？

【原文】

然れども精神の結合なくんば断じて真実にして恒久なる統一なし。単に利己主義を抑圧するに止まらば、尚ほ未だ足らざるなり。之を繋ぐは之を統一する所以に非ず。萬国を繋ぐの絆は更に強き愛着の其の間に存するなくんば直ちに断絶すべし。これ実に天意が諸々の帝国を建設し、更にまた之を破滅し去る所以なり。其の統一が協力に非ずして服従となる時、其の結合が覇絆となる時、隷属の民の発達に資せずして之を阻止するに至る時、天意即ち諸国統一の絆を寸断す。然る時に天意は自由を弘布せんが為に力の発展を犠牲にす。天意は現に見るが如く叛逆の独立、放恣なる自治を屈服し、同時にまた現に見るが如く多年圧迫せられたる民族を其の奴隷の境遇より解放せんとす。天意今や羈轡を断ち、諸国の間に横はれる墻壁を毀ち、一を抑へ他を放ち、而して一切を完成して至心より出でたる一致団結に向はしめんとす。此の一致団結のみ、能く四海一家の実を挙げ得べし。天意は一日も息むことなく、或は平和の間に或は剣戟の間に、自由にして唯一なる、生命あり且つ神聖なる、四海一體の大業に従いつゝあり。

如是至高観念の奉仕者たるを自覚せる日本よ。天来の国是を奉ぜよ、天為し給ふ如く、自由を与へ且つ統一せよ。自由を亜細亜に与へ且之を統一せよ。亜細亜は汝の天地なり、亜細亜は汝が活動の地なり、而して已むことを得ずんば戦闘の地なり。汝能く之を知れ。

【現代訳】

されど精神の結合がなくては断固として真実としての永遠の統一はありません。単に利己主義を無理やり押さえつけることに止まれば、なおまだ足りません。これをつなぐのはこれを統一する理由ではありません。あらゆる国をつなぐ絆は更に強い愛着の間に存在するのでなければ直ちに断絶すべきです。これ実に天の意思がもろもろの帝国を建設し、更にまたこれを滅ぼし去る理由です。その統一が協力的でなく服従となる時、その結合がつなぎとめるだけのものとなる時、他の支配を受けて言いなりになる民の発達を助けなくてこれを阻止してしまう時、天の意思すなわち諸国統一の絆をはずたに切って仕舞います。そのような時に天の意思は自由を世間に広める為に力の発展を犠牲にします。天の意思は実際に見えるように権威・権力などにさからうことの独立、わがままでだらしない自治を圧迫し、同時にまた実際に見えるように長い年月圧迫させられた民族をその奴隷の境遇から解放しようとしています。天の意思は今や束縛を断ち、諸国の間に横たわる障壁を壊し、一つを抑え他へ放ち、そして全てを完成してまごころから出た一致団結に向かわせようとしています。この一致団結のみ、よく世の中の人々を一つの家族のように見ることの現実を挙げ得ることができのです。天の意思は一日も息をつめて腹に力を入れることなく、わるいは平和の間にあるいは刀剣による戦いの間に、自由でただ一つの、生命ありかつ神聖な、世の中一の大業に従いつつあります。

このように最高の考えにつかえることを自覚している日本よ。天から恵まれた国是を奉じなさい、天が為し与えるように、自由を与えかつ統一せよ。自由をアジアに与え統一せよ。アジアはあなた方の天地であり、アジアはあなた方の活動の地であり、そしてやもえなければ戦闘の地となるのです。あなた方はよくこれを知って欲しい。

【解説】

これまで多くのヨーロッパ諸国、アメリカ、ソ連などは他国を隷属させ、圧迫してきました。そこには異文化の違いによる差があるにもかかわらず、強制的に支配をしてきました。果たして日本がそれをしていないかというところでもないかもしれませんが、独立を助け、その国と国民を尊重し、人心の向上に努めることを目的としていれば、例え武力で負けたとしても、その心は引き継がれていくのではないのでしょうか？

明治に來日したトルコの使節が帰国途中に難破して大勢の方が亡くなり、その縁で日本とトルコが仲良くなり、それは今でも続いていることを時折テレビで放映しております。トルコでは日本の素晴らしさを教育で教えているそうです。

お隣の半分狂っている言語を使っている「反日教育」をしている国とは大違いです。

また、スウェーデン国王は時折來日されますが、遠い国のスウェーデンが独立できた事由に日本が大きく関わっていることは、あまり知られておりません。本来であれば「明石大佐」が成したことを日本の教育でも教えることが大切に思っています。

日本は確かに大東亜戦争で悲惨な状況になりました。しかし、その心まで失いかけている今の方が大東亜戦争で終戦を迎えたよりも悲惨な状況かもしれせん。

リシャールが言っている「日本が奉じている国是」とは一体なんでしょうか？

それを私たちが知る必要があると思います。

国是：国全体が是（ぜ）と認めた政治上の方針。一国の確定した施政方針。

【原文】

世界戦に於て列強は、他に汝を用ひんとせり。汝は己れの時到るを待つべきを知れるが故に、歐洲に於ける流血の渦中に投ずるを避け、亜細亞に於て応分の活動をなすに止めたり。汝は亜細亞に於て汝の大業を容易ならしむるものを獲得せり。他国は其の分野として歐羅巴の半を有し、而して之を得んが為に焦心しつゝあり。汝の分野は八徳の民、全人類の半を有する全亜細亞なり。汝の任は他なし自由を彼等に与ふるに在り。『歐羅巴の自由の為に戦ふ』と稻する列強の同盟国よ。何ぞ彼等に向つて言はざる、『吾れは諸君の志を成さしめん、而して亜細亞の自由の為に戦はん』と。如是にして汝は列強の誠意を知り得べし。如是にして、而して唯だ如是にしてのみ、能く汝は列強の敬意をかし得べし。蓋し彼等は唯だ其の恐るる者のみを敬す。若し汝が列強をして亜細亞を敬せざるを得ざるに至らしめば、彼等初めて汝を敬す可し。然れども亜細亞にして其の自由を恢復せざる限り、断じて列強の敬意を博し得ざるなり。豈啻に敬意と言はんや、歐羅巴にして亜細亞を目するに属国を以てし、歐羅巴の実は亜細亞の一部に過ぎざるを悟らざる限り、彼等は亜細亞に向つて愛憐の情をだに有せざるなり。天の歐羅巴を形成するや之を以て亜細亞の一半島ならしめたり。希はくは汝の大業によつて此の一事を西欧の思想に徹せしめよ。

【現代訳】

世界の戦に於いて強い力を持つ国々は、他にあなた方を用いようとしませぬ。あなた方は自分達の時が至ることを待つことを知っている為に、歐洲に於ける流血の渦中に身を投じること avoidance、アジアに於いて分相応の活動をなすことに止まるべきです。あなた方はアジアに於いてあなた方の大業を容易にするものを手に入れるでしょう。他の国はその分れた範囲としてヨーロッパの半を有し、そしてこれを得ようとする為に心をいらだたせつつあります。あなた方の分れた範囲は、八徳（仁・義・礼・智・信・忠・孝・悌）の民、全人類の半分を有する全アジアです。あなた方の任せられた役目は自由を彼らに与える他はありません。「ヨーロッパの自由の為に戦う」と称する列強の同盟国よ。どうして彼らに向かつて言わないのか「我等は諸君の志を成させよう、そしてアジアの自由の為に戦おう」と。このようにしてあなた方は列強の誠意を知り得ましょう。このようにして、そしてただこのようにしてのみ、よくあなた方

は列強の敬意を勝ち取りましょう。まさしく彼らはただその恐れる者のみを敬います。もし列強がアジアに敬意を得ることに至らなければ、彼らは初めてあなた方に敬意を表するでしょう。しかしアジアでその自由を回復しない限りは、断固として列強の敬意を自分のものとはできないでしょう。単に敬意とは言いません、ヨーロッパからアジアを見る目は属国を見る目であり、ヨーロッパは実はアジアの一部にすぎないことを悟らない限り、彼らはアジアに向かつてあわれみいつくしむ情は持ちません。天がヨーロッパを形成するのはこれをもってアジアの一半島でしかないことです。願わくばあなた方の大業によってこの一つの事柄を西欧の思想に徹底してほしいのです。

【解説】

当時、アジアの殆どの国は欧米諸国の植民地でした。植民地を隷属させ自国の利益のためにのみその国民をこき使うようなことをしていたのです。植民地として侵されていない国は、日本とタイのみでした。世界人口第1位のインドはイギリスに、世界人口第2位の中国はアヘン戦争から始まり、イギリスなど列強の国々によって植民地化されておりました。列強の国々はアジアの人達(黄色人種)は我々よりも劣っていると考え、今では当たり前になりつつある人種平等などありませんでした。

その隷属させられている国々の人々を隷属から解放するためという大義のもと、日本の役割は大きなものであり、ヨーロッパはアジアの一部でしかないことをヨーロッパの人々にさとらせるのは日本しかないとリシャールは言っております。

渡部昇一著書「かくて歴史は始まる」のなかで、

「歴史を見るうえに於いて、現在の常識で歴史を見てはならない。当時の常識で歴史を見なければ、その本質を見失う」

と記載されております。

私達は日本も侵略したのではないかと教育されました。日本は確かに他国へ足をのばしました。しかし、欧米諸国のやり方と日本のやり方には大きな差がありました。

何を以て自由とするのか、何を以て侵略とするのか。それは個々の判断にお任せしますが、ある一例をここに挙げたいと思います。

インドの解放に尽力したチャンドラボース氏は当時、日本の陸軍と協力してインド解放軍を結成しイギリスに立ち向かいました。しかしインパール作戦が失敗し、ころざし半ばでチャンドラボース氏は亡くなります。

しかし、インドの国会議事堂にはその独立に尽力されたガンジー氏と共に肖像画が掲載されております。インドの国民は独立に活躍したこれらの方々に敬意を表しているからこそ、国会に肖像画を掲載しているのではないのでしょうか？

果たして、日本が行ったことが全て間違っていたのでしょうか？このチャンドラボース氏の事実を見ても、すべてが間違っていないことがわかるのではないのでしょうか？

【原文】

汝若し茲に出でずんば、近く世界に割擦すべき偉大なる聯盟の間に処して、汝の地位果して如何。到处に機運の動きつゝあるを見ずや。第一はアングロ・ラテン同盟なり。蓋し彼等は最早相離るゝ能はず、両民族相結んで互に扶翼するの要あり。次には中欧帝国の出現にして、其の基礎既に置かる。何が故に天意の向ふ所を領会せざる。次に露西亜は統一ある強大国たらん、蓋し露西亜の内部には離群独存して覚醒すべき眠れる天稟あり。そは旧大陸の西方と東方との連鎖たらん。次には阿弗利加に於て回教徒を糾合し之を刷新せる一帝国の起るありて、其の過去の罪を贖はん。最後には大洋の彼岸に於て新しく而して更に内容あるアソグロ・ラテン同盟を実現すべき両亜米利加の結合あらん。そは新しき世界にして、今新しき精神生れつゝあり。

【現代訳】

あなた方がもしここに出なければ、近く世界で割拠すべき偉大な聯盟の間に身を置くにあたり、あなた方の地位は果たしてどのようになるのでしょうか。至る所に時期の巡り合わせが動きつつあることを見れないでしょうか。第一は、アングロ・ラテン同盟です。まさしく彼らは早くもお互いに離れることは出来ず、両民族は相結んでお互いに助け合う必要があります。次には大ドイツ帝国の出現で、その基礎が既に置かれております。どのような理由で天の意思の向かう所を了解できるのでしょうか。次にロシアは統一ある強大国であろうとし、確かにロシアの内部には群れから離れ独立して覚醒すべき眠っている天性があります。それは旧大陸の西方と東方との連鎖でしょう。次にはアフリカに於いてイスラム教徒を寄せ集めまとめこれを刷新する一帝国が起るのがある、その過去の罪を償おうとしています。最後には太平洋の対岸に於いて新しくそして更に内容あるアングロ・ラテン同盟を実現すべきアメリカの結合があります。それは新しい世界にして、今新しい精神が生まれつつあります。

【解説】

第一次世界大戦後、世界恐慌という大不況を迎えました。アメリカを中心としたニユーディール政策、ヨーロッパ諸国とその植民地でのブロック経済、日本はこの大勢力とは違うところに身を置いておりました。不況の中で民衆は不安と不満が募り、特にドイツではユダヤ人による経済支配が民衆の不安・不満の矛先となり、その機をとらえたヒトラーが政権をとったのでした。

このリシャールの著書はそれ以前に書かれたものですが、おおよその世界の趨勢を予見していたのは事実です。土地柄や民族性がある程度理解し、世界の行く先を示していたのではないのでしょうか？

【原文】

此間に処して、若し汝にして自由なる亜細亜の盟主たる地位を確立するに非ずんば、来るべき莊嚴なる世界の勢力均衡に対して如何かする。若し亜細亜にして依然として隷属の境遇に在り、汝にして亜細亜を解放し且之を統一するの力を得るに非ずんば、汝は抑々何ものに事へんとするか。而も亜細亜を解放せんが為には、汝は先づ自ら亜細亜の解放を妨げんとする一切の矛盾せる提議、一切の屈従より自由ならざる可からず。而して亜細亜を結合せんが為には、先づ汝を亜細亜に結合せざる可からず。亜細亜諸国は汝が隔意なきことを知らざる可からず、日本が彼等の微弱に乗じて野望を逞しうするが如きものに非ざるを知らざる可からず。日本が真の良友にして借面せる敵に非ざるを知らざる可からず、日本が真に導著にして偽りの牧者に非ざるを知らざる可からず、日本が彼等の翹望する英雄にして覆面せる第二の暴君に非ざるを知らざる可からず、諸国若し日本を信ぜば、諸国は其の全力を挙げて之を日本に献ぜん。目を挙げて見よ、見て而して亜細亜が其の信賴するに足ると信ずるものに献すべき力を算れ。

【現代訳】

このような間に身を置き、もしあなた方が自由なアジアの盟主である地位を確立することがなければ、来るべき重々しく厳かな世界の勢力バランスに対してどのようなのでしようか。もしアジアが以前のように隷属の境遇のままにいるならば、あなた方がアジアを解放しかつこれを統一する力を得ることが出来なければ、あなた方もそも何に事を構えようとするのでしようか。しかもアジアを解放する為には、あなた方はまず自らアジアの解放を妨げようとする全ての矛盾している提議、全ての屈服より自由にならなければなりません。アジア諸国はあなた方が打ち解けない心がない事を知らなければなりません、日本が彼らの勢力が弱いことに乗じて野望を逞(たくま)しきするがごときものではないことを知らなければなりません。日本が真の良い友であり敵としての向かつてくるのではないことを知らなければなりません、日本が真に導く者として偽りの牧者ではないことを知らなければなりません、日本が彼らの心から望み待つ英雄として覆面する第二の暴君ではないことを知らなければなりません、諸国がもし日本を信じれば、諸国はその全力を挙げてこれを日本に献じるでしょう。目を挙げてみて下さい、見てそしてアジアがその信賴するに足りると信じるものに献じるべき力をはかって下さい。

【解説】

西欧の列強のように、武力のみで赴くのではなくそこには指導者たる威厳と懐の深さがないと、西欧列強と同等の植民地支配でしかないことをリチャールは警告しておられます。大東亜戦争後に独立したアジアの国々は次の通りです。

wikipeia よs

1946年7月・フィリピンが独立。

近世から欧米列強に植民地にされ、太平洋戦争中は日本の占領下にあった。その後、アメリカが引き継ぎ独立。

1947年・インドとパキスタンがイギリスから独立。

その後、カシミール地方を巡って印パ戦争に。1998年には両国が核武装した。

1948年・スリランカ（セイロン）がイギリス連邦の自治国として独立。

イギリスのインドからの撤退に伴う。1972年にセイロンからスリランカ共和国に改称。しかし北部のタミル人との対立は継続。

1948年・ビルマ連邦がイギリスから独立。

1989年民主化に失敗し、当局はミャンマーと国名を変え、軍事国家の統制を強めた。

1948年・朝鮮は38度線を境に大韓民国と朝鮮民主主義人民共和国に分断された形で日本から独立。（日本の支配自体は1945年に終了したが、北はソ連、南はアメリカ合衆国によって占領された。）

1949年・インドネシアがオランダから独立。

インドネシア独立戦争の後、独立した。

1953年11月・カンボジアがフランスから独立。

その後、隣国ヴェトナムの戦争に巻き込まれ、カンボジア内戦となった。

1954年・フランスがベトナムから撤退。

フランスが第一次インドシナ戦争敗退の後、撤退。ベトナムは南北に分断され、冷戦を背景にベトナム戦争となった。1976年に北ベトナムの南北統一で現在のベトナム社会主義共和国となった。

1957年・マレーシアがイギリスから独立。

このように、多くのアジアの国々が隷属から独立し、自主自存の道を選びました。現在でもアフリカや共産圏の国家独立が続いております。白人の他人種支配と言う悪行の長い歴史は、大東亜戦争がなければ解消されなかったのではないのでしょうか？

その為に、味方も敵も多く尊い人命を失ったことは非常に残念でありませんが、

少し時代はさかのぼって日露戦争前のニコライ2世の言葉

「子猿が敢えて朕に戦争をしかけるなぞと、一瞬たりとも想像できない。帽子の振りでかたづけしてしまうさ。」

一国の宰相や統治をつとめるものが、人としての奢りを持つことで戦争が勃発することもあるのではないかと思います。

【原文】

汝の門戸に位し、全人類の四分の一を抱擁する巨大なる国を見よ。其国広袤萬国に比なく、平和を旨とする事に於て亦萬国に冠たり。そは曾て劍を以て他を征服し、又は征服者を逐ふの要を見ず、唯だ悉く之を吸収し去つて足れり。此の巨人は汝を待たずして一事を成し得ざるなり。而して此巨人と提携して汝は萬事を成し得べし。兩國を割くものは抑々何ぞ。そは狭くして而も深き溝壑なり。汝は此国が正当なる理由によりて信頼するを得ざる列強と交はり、彼等と同一の行動に出でたり。今や彼れの誤解を払拭し、吾れの過失を補償するの秋なり。汝は之を能くするの途を有す。汝が之を与へて以て親善の実を示すべきもの、正に何時の掌中に在り。

汝が列国の大乱に参加せるは、之を得んが為めに非ざりしか。汝の声明せる所を守りて、此国のために汝が奪還せるものを恵与せよ。他国が暴力を以て此国より強奪せるものを、汝は無償にして此国に与へよ。如是にして、汝は夫の己れに倣へと教へて、汝をして己に對する武備を解かしめんとする国民を瞠若たらしめ、また汝が他に倣はんことを恐れて、汝に對して武装する国民を瞠若たらしむべし。汝は範を萬国に垂るべし。若し汝にして之を敢行せんには、萬国其の前に跪拜せん。

【現代訳】

あなた方の一派に位置し、全人類の四分の一を抱擁する巨大な国を見て下さい。その国の広さはあらゆる国に比するものなく、平和を旨とすることに於いてまたあらゆる国に冠しております。それはかつて劍を以て他を征服し、または征服者を追う必要もなく、ただことごとくこれを吸収しきつて十分です。この巨人はあなた方を待たないで一事を成すことは出来ません。そしてこの巨人と提携してあなた方は万事を成すことができるのです。兩國を割くものはそもそも何でしょうか。それは狭くしてしかも深い溝であります。あなた方はこの国が正当な理由で信頼を得ていない列強と交わり、彼らと同一の行動に出ました。今や彼らの誤解を払拭し、われの過失を補償する時であります。あなた方はこれを良くする道筋を知っております。あなた方がこれを与えて親善の実を示すのも、まさにいつもの時の掌中にあるのです。

あなた方が多くの国々の大乱に参加するのは、これを得る為ではないのでしょうか。あなた方の声を明かす所を守り、この国（巨大な国）の為にあなた方が奪還したものを恵み与えて下さい。他の国が暴力を以てこの国より強奪したものを、あなた方は無償でこの国に与えなさい。このようにして、あなた方は私達に習いなさいと教えて、あなた方の実践で以て己に對する軍備を解こうとする国民を驚かせ、またあなた方が他に習わない事を恐れて、あなた方に対して武装する国民を驚かすべきです。あなた方は模範を全ての国に示すべきです。もしあなた方がこれを無理を承知で押し切れば、あらゆる国はその前にひざまずいて拜むでしょう。

【解説】

「全人類の四分の一を抱擁する巨大な国」とは中国であり、当時中国はアヘン戦争によるイギリスの半植民地化で辛亥革命、中華民国政府樹立を経て各地方での軍閥による内戦を迎えておりました。もともと多民族国家である中国を一つにまとめること

は大変なことで、清王朝も崩壊しました。

半植民地化された中国にも開放の手を差し伸べるよう、またその手段は欧米列強と同じにあつてはならず、その国や国民の心に響くことをしなさいとリチャールは言っております。

その後の中国の歴史を見ると、残念ながら日本と敵対し日中戦争となり中国はアメリカ・イギリス・オランダと協定を結び日本は敗戦を迎えます。多くの戦争孤児が未だに中国にいるようです。

もともと中国は、孔子や孟子を輩出した国であり、人として学ぶべき教養や学問が盛んでありましたが、様々な変遷を経てその大切なものを失って仕舞いました。

2008年5月6日に来日した中国の胡錦濤国家主席は、日中友好に尽力した日本側関係者の家族らと面会し、中国の故事を引用し、「水を飲む人は井戸を掘った人の恩を忘れない。日中関係への貢献に感謝します」と謝意を表しましたが、尖閣諸島問題・南シナ海のカス田等の開発など、その横暴ぶりは孔子・孟子の教えに反しており、古き良き中国の文化を文化大革命によって消し去ったつけがまわってきているのではないのでしょうか？

北京オリンピックでは中国人民の民度の低さがよくニュースで流れておりました。今回の東日本大震災に於ける非常時の日本人の節度と礼節は世界各国から賞賛されていることを見れば、日本が中国に何をしなければならなかったのか、リチャールはその本質を見抜いていたのかもしれない。

隣国でありながら仲が悪いのは非常に残念ですが、自分のことしか考えられない国で、しかも人口が世界一となると非常にやっかいなことだと思えます。

ここはやっかいなだけに猪八戒に頑張って頂きたいものです。

【原文】

此国に与ふるに、其の最早求めず又望まざるものを以てせよ。そは敢て大なるものに非ず、唯だ一個の都市のみ。而して汝は其の代償として一個の大陸を与へられん。汝の面前に立てる此のスフィンクスの謎を解き、汝の為に神性なる支那の門戸を開く可き秘鑰は実に此中に存す。さらば其の秘訣を知れ。暗黒の世終らんとする時、尙未だ充分に偉大なる思想を有せざる支那は、起つことを得ずして其の巨軀を揺がしたり。蓋し直立せんが為には其の巨軀に相応する思想を必要とするが故なり。支那は聖賢によりて国を成せり。而して聖賢のみ能く此国を其の卑賤なる利欲と無数の分裂とより救ふを得べし。故老既に去り、新人尚ほ未だ現はれず、支那は彼等を待つ。夫れ支那の混沌は諸々の世界を生み、諸々の創造を孕むの混沌なり。而も之が為には唯だ独創的にして真実純一なる觀念の光明、其の中に輝くを要す。蓋し如何なる混沌も光輝なくして統一を与へらるゝことなし。支那は此の光輝を待ち、此の曙光を望む。曙光の兒よ、自ら覚醒して此の光明たれ。

【現代訳】

この国（巨大な国）に与えるのに、その早く求めずまた望んでいないものを以てして下さい。それはあえて大きな物ではなく、ただ一個の都市のみ。そしてあなた方はその代償として一個の大陸を与えられるでしょう。あなた方の面前に立つこのスフィンクスの謎を解き、あなた方の為に神の性質である支那（中国）の門戸を開くべき秘密の鍵は実にこの中に存在します。それならばその秘訣を知って下さい。暗黒の世が終わろうとする時に、なお未だ充分に偉大な思想を持たない支那（中国）は、立つことをしないでその巨体を揺るがしております。まさしく直立する為にはその巨体に相応する思想を必要とするが故であります。支那（中国）は知識・人格にすぐれた人物によつて国が起りました。そして知識・人格にすぐれた人物のみよくこの国をその人としての品位が低い自己の欲望と無数の分裂から救ってきました。昔の事や故実に通じている老人は既にこの世を去り、新しい思想や才能を持った人なお未だに現れず、支那（中国）は彼らを待つております。その支那（中国）の入り混じった状況はもろもろの世界を生み、もろもろの創造をはらんでいる入り混じった状況なのです。しかもこれが成される為にはただ独創的な真実で飾りけやうそ偽りが無い考えの明るい光が、その中に輝く必要があります。思うに如何なる入り混じった状況もかがやきがなければ統一を与えられることはありません。支那（中国）は、このかがやきを待ち、この夜明けの光を望んでおります。夜明けの光の兒よ、自ら目を覚ましてこの明るい光でいて欲しい。

【解説】

日本は、その歴史に於いて渡来人という人達に多くを学び、また仏教伝来による学問が多く入ってきました。遣隋使や遣唐使が中国におもむき、仏教を学びその学問所が国内にも起こりました。

鎌倉時代には足利学校が創設され室町時代・戦国時代には関東における最高学府と

して存在し、そこでは儒学だけでなく兵学や易学も学ばれました。

江戸時代には、南宋の朱熹によって再構築された儒教の新しい学問体系である朱子学が江戸幕府の正学として学ばれました。

儒教の教書として代表される「四書五経」。四書は「論語」「大学」「中庸」「孟子」、五経は「易経」「書経」「詩経」「礼記」「春秋」をいいます。儒教や朱子学など中国より伝わった教えが鎌倉時代以前により日本国内に伝播し、江戸時代には学問として熟成され、「武士道」やとして成り立ちました。

佐藤一斎・渡辺崋山・佐久間象山・新井白石・山崎闇斎など江戸時代には多くの大家が生まれております。

このような日本の歴史を鑑み、リチャールは当時中国が失っていた大切な教えを、その真実を以て中国に伝えよと訴えたのであります。

世界に「武士道」が伝わった大きな要素と言われる新渡戸稲造著書の「武士道」は、それまで東国に弱小国家でしかないと思われていた日本を世界に知らしめ、日露戦争前後に於いては、日本兵の取った行動そのものが、「武士道」精神として世界から称賛されました。

中国はこのような歴史からみても、日本の師でもあり世界から学ばれるべき要素を持ち合わせているにも関わらず、欧米列強の駆け引きに乗り、自国を破たんに追い込んで仕舞いました。

アヘン戦争というイギリスの傍若無人な振る舞いは、中国の清王朝を内側から崩壊させ、中国そのものが世界の潮流に巻き込まれて行きました。その中国を一つに収めるために、大東亜戦争後共産主義が主流になり、一党独裁による共産党支配が確立しました。もともと多民族国家である中国が一つにまとまることは非常に困難であり、その亀裂は資本主義の導入により始っております。

中国人民解放軍は中華人民共和国の国軍ではなく、共産党の軍部であり共産党主導による軍隊です。

政治の詳しいことはわかりかねますが、その基礎は国民の民度や教育にあり、中国の教育は主に文化大革命によって崩壊してしまいました。リチャールはその国の在り方は国民の心にあると言っております。中国だけでなく、私達日本人も日本人としての心を見失えば、国が滅びることを中国から学ばなければならないのではないのでしょうか？

【原文】

燦然たる精神の神秘力を汝の衷に喚起せよ、而して支那に向つて進め、支那の待てるは他になし汝なり。今日に至るまで支那は他国の途を踏むことを肯んぜざりき。蓋し支那の精神は異邦の精神と其の類を同うせず、それは将来と相接する深甚なる過去より来れるものなるが故なり。されど汝の精神も亦其源を一にするに非ずや。然らば両者相並んで共に新しき道を拓き、地に正義と平和とを招徠する途を拓け。両者相結んで亜細亜を結び、亜細亜を中心として世界を結べ。亜細亜にして一たび結合せられれば、それは世界の司法者たり、統一の中樞たらん。人道の心臓は亜細亜の衷に鼓動す。

【現代訳】

きらきらと光り輝く精神の神秘の力をあなたの方の心の中に呼び覚ませ、そして支那（中国）へ向かつて進め、支那（中国）がまつているのは他ではなくあなたの方です。今日に至るまで支那（中国）は他国の道を踏むことを聞き入れなかつた。まさしく支那の精神はよその国の精神とその類を同じくせず、それは将来と相接する奥深い過去から来るものである故です。されどあなたの方の精神もまたそのみなもとを一つにしているのではないでしょうか。しからば両者相並んで共に新しい道を拓き、地に正義と平和を招来する道を拓いて下さい。アジアでひとたび結合すれば、それは世界の法をつかさどるものであり、統一の中樞であります。人の道の心臓はアジアの心の中に鼓動しているのです。

【解説】

中国の詩人「杜甫」は「春望」の中で次の言葉を残しております。

国破山河在

国破れて山河在り

城春草木深

城春にして草木深し

感時花濺淚

時に感じては花にも涙を濺ぎ

恨別鳥驚心

別れを恨んでは鳥にも心を驚かす

烽火連三月

烽火 三月に連なり

家書抵万金

家書 万金に抵る

白頭搔更短

白頭 搔けば更に短く

渾欲不勝簪

渾て簪に勝えざらんと欲す

都は滅茶苦茶になってしまったが山や河は昔のままであり、長安には春が訪れて草や木が深々と生い茂っている。

世の中の有様に心を動かされて花を観ても涙をはらはらと零し、家族との別れを惜しんでは鳥の声を聞いても心を傷まさせている。

打ち続く狼煙火は三月になってもまだ已もうとせず、家族からの便りは万金にも相当するほどに思われる。

白髪頭は掻きむしるほどに抜けまさり、まったくもって簪を受け留めるのにも耐え兼ねそうだ。

このような詩に、昔の日本人は感動しました。

今や、資本主義が入り中国は金儲けが軸になりました。経済成長は著しいものの、既にバブルは崩壊しております。日本はバブル崩壊によって経済は鈍化し、また、心も衰退しております。しかし、まだ日本人としての心の支えを失っていない人達がいるので、中国よりはまだまだましかもしれません。

中国の貧困の差は著しく、国家破綻の兆しは軍備増強と他国への侵略！

孫子が言っております。戦争は下策だと。

現代は、そんな中国よりも例え貧しい国でも親日のインドや東南アジア各国と手を取り合って、進んでいくべきではないでしょうか？

【原文】

是れ実に過去に於て、並に将来に於て、汝のために開かれたる大道なり、王道なり。汝自ら之を塞ぐに非ざるよりは、何者も此道を塞ぐ能はず。想へ、三千年の準備断じて徒爾ならず。若し汝にして其の当に在るべきものたらずば、汝は最早存せざるなり。蓋し当に在るべきものの力は、其の抗す可からざる潮流に萬国を乗托せしめ、逡巡するものは之を葬り去つてまた存せざるに至らしむ。その伝令使たれ、その前駆たれ、此道の外に汝の道なし。汝は神秘なる天命の下に世界の第一国たらんことを望める国に非ずや。汝正に世界の第一国たる可し。汝正に明くる日の萬国の首とならん、然らば来らん夜の萬国の首とならん。白日の赫灼、其の目を眩せしむる萬国の首とならん、然らずば其の光被する萬国の首とならん。

吾れ現世の喧騒裡に二つの声ありて、汝を呼ぶを聴く。扱んで其一を採れ。一つの声は曰く利を求めよ、汝の眼界は其の足踏み、其の手掴み得る事物の外に出づ可からず。強者に親しめ、彼等を畏怖せよ、而して止むなくんば彼等に事へよと。

【現代訳】

これ実に過去に於いて、並びに将来に於いて、あなた方の為に開かれた大道であり、王道であります。あなた方自らこれを塞がないようにするよりは、何ものこの道を塞ぐことは出来ません。思えば、三千年の準備は断じて無駄ではありません。もしあなた方がそのまきにあるべきものでないのであれば、あなた方はもはや存在しておりません。思うに、まきにあるべきものの力は、その抵抗することのできない時勢の動きにあらゆる国を乗せ、ためらうものはこれを葬り去つてまた存在できないようにして仕舞います。その伝令使でいて欲しい、その先駆けでいて欲しい、この道の外にあなた方の道はありません。あなた方は神秘な天命のもとに世界の第一国であることを望める国とは違いますか。あなた方はまきに世界の第一国であるべきです。あなた方はまきに明るい日の萬国の首領となり、そうであるならばやってくる夜の首領となるでしょう。太陽の照り輝くひかり、その目をくらませる萬国の首領となり、そうでなければその光が広く行きわたる萬国の首領となるでしょう。

私はこの世の喧騒の内には二つの声があつて、あなた方を呼んでいるのを聞きました。その一つを選んで採用して下さい。一つの声が言うのは利を求めよと、あなた方の視界はその足踏み、その手掴みで得ることのもの外に出発点はありません。強いものに親しみを持ち、彼らを恐れおののき、そして止むを得なければ彼らに事を構えなさい。

【解説】

現在世界では 195 カ国の国が存在します。外務省のホームページを見ますと 195 カ国中 194 カ国を日本が承認しているそうです。

科学技術が発達し、人々の生活様式は様々に変化しましたが、人の有り様は昔から何も変わっていないのではないかと思います。昔の人は頭の後ろに目があつた？手があつた？などの人体的特徴や、人間が生活する上での周囲の環境（雨・風・季節・

地震・台風）などは、教わっている範囲では昔から何も変わってはおりません。

人間と言う生き物の追求を人が成した歴史は数多くあります。

「哲学者」と言われている人達は、人間の持つ性質を追求し、人の営みをあらゆる側面から見ようと努力しました。

つい最近日本でも多くの人々に受け入れられたのは、デール・カーネギー著書「人を動かす」や「道は開ける」というような書籍があるのではないのでしょうか？

しかし、多くの哲学者が「神秘の扉」の前に挫折し、自ら命を絶っていることも事実です。

人の欲求は、あらゆるところに出て、それは何が成すのか？考えて行けば行くほど頭が混乱します。

日本と言う国は、古事記にあるように八百万の神々様が鎮まれる国として開かれ、天皇を中心とした統治が約2700年成されてきました。他国を見てみると、国々の栄枯盛衰にはあらゆる宗教が存立しており、宗教戦争なども行われてきました。

リチャールは強い国には寄り添いなさいと言っております。しかし、その国と意が異なるときは事を構えなさいとも言っております。国と国の対話や交わりでありながら、例え文化が違えども隣人・知人・友人と接するように、それらの国々と接することができれば、戦争と言う最終手段（人でいえば殴り合いの喧嘩）を取る必要はないのかと思います。

しかし、外交は駆け引き！相手を知れば知るほどにその民族の在り方が違うことに気付くのではないのでしょうか？

他国やその国々の人々と交わるときに民族の違いに対して何を以て（何を基準にして、または何を心がけて）交わるのか、そのヒントがポール・リチャールの著書『告日本國』に隠されているように思えます。

【原文】

されど他の声は即ち日く、何ものにも奉事する勿れ、唯だ汝の使命を奉ぜよ。何ものをも怖るゝ勿れ、唯だ使命に副はざるの一事を恐れよ。強者の力に頼る勿れ。過去は之を払拭し去らん、而して汝も亦共に亡びん。弱く見ゆる者の微力を助けよ。彼等は来らん世の選民なり。前途を長望せよ。損失を招くべき利益を受くる勿れ。汝に与へらるゝ現前の小利をも受くる勿と。

此声は汝の大業を導く天来の声なり。天、汝と共に此の大業を成就せん。されど天は汝の参与なくして、或は汝の反抗を受くるも、尚ほ能く大業を成就せん。今や正義の国を建設せんとして大地を耕しつゝある萬国の神に向つて、如何なる国か長く反抗を持続せん。そは萬国の間を進む。

其の審判は其の到る前に下さる。之に逆ふ者は既に亡べるなり、之と共に戦ふ者は今よりして勝てるなり。そは天の外に勝利者なく、天の外に汝を亡ぼすものなきが故なり。日本よ、天喚び給ふ恩寵の民よ。汝は何ものたらんとするか。

吾れは見たり、吾れは日本の魂を見たり。汝は神命を奉じ、神意を成じ、勝利の劔と将来の帝冠とを受けんがために、肅然として神前に俯伏せり。日本よ、戦士よ、彌栄えよ。汝の守護神と平和の守護神と、共に汝の裡に在りて互に萬歳を高唱す。

【現代訳】

しかし他の声は言いかえれば、何ものにも奉仕せず、ただあなた方の使命を奉じなさい。何ものをも恐れることはない、ただ使命に副わない一事を恐れなさい。強い者の力に頼つてはならない。過去はこれを払い拭い去り、そしてあなた方もまた共に亡びよ。弱く見える者の微力を助けなさい。彼らはやって来る世の選ばれた民である。行く先を長い目で見なさい。損失を招こうとする利益を受けてはならない。あなた方に与えられる目の前にあるわずかな利益を受けてはならない。

この声はあなた方の大業を導く天からの声です。天はあなた方と共にこの大業を成就しようとされるでしょう。しかし天はあなた方の参与なくとも、あるいはあなた方の反抗を受けようとも、なおよく大業を成就しようとします。今や正義の国を建設しようとして大地を耕しつゝあるあらゆる国の神に向かつて、いかなる国であろうとも長く反抗することは出来ません。それは万国の間を進むのです。

その審判はその大業が成就される前に下されます。これに逆らう者は既に亡びるであらう、大業と共に戦う者は今から勝てるであらう。それは天の外に勝利者は無く、天の外にあなた方を滅ぼすものは無いからです。日本よ、天が呼ばれる恩寵の民よ。あなた方は何ものであるうとするのか。

私は見た、私は日本の魂を見た。あなた方は神の命を奉じ、神意を成就し、勝利の劔と将来の王冠（首領の地位）を受けける為に、おごそかに心を引き締めて神前に頭を下げよ。日本よ、戦士よ、ますます栄えよ。あなた方の守護神と平和の守護神と、共にあなた方の内にある互いに万歳を高唱する。

【解説】

日本は戦後、目の前にあるわずかな利益に目がくらみました。

数千年にわたり培われ祖先より受け継がれてきた日本人としての心やありようが、わずか戦後70年経った現代に失われようとしております。

私達の先祖が培ってきた日本の文化は、ただ単に日本だけのものに留まるのでしょうか？

天然自然の恵みを生かすには何をしなければならぬのか。

自然と人、人と人とが共存し有意義に生きていくためには何を学ばなければならないのか。

このことは、日本だけでなく世界でも共通しているのではないのでしょうか？

何故ならば、人間は天然自然の恩恵無くしては絶対に生きて行くことができないから！

多くの人々と共に、明日の日本・明日の自分のために、学びたく思います。

ここで、「心の学問塾…誠心館」の設立趣意書を掲載します。

先の大戦の戦後復興から、今日の経済大国日本への道のりをひたすら築き支えてこられた諸先輩もすでに老境に達し、有史以来先人より連綿として受け継がれてきた「大和心」は、虚構の平和の中で徐々に喪失されつつあることは多言を要しない。

「精神文化果つるところに国家・文明の衰亡あり」

それは人類の歴史が厳然と示し、現下の世相世情に鑑みれば我が国もその論外ではない。

とくに次代を担う若者達は、未曾有の平和と繁栄の中で、すでに己が魂は骸のごとくあり、青雲に満ちた確固たる人生指標も定められぬまま、刹那的な日々を過ごしているのが実情である。

すでに学校教育に建国の基を築く気概なく、建学の理念に満ちた学府も昔日の面影を残すのみ。

これを憂い、今なお社会の一隅では有志の人々が草莽の活動を試みているものの、それさえ物の怪社会が産み出した、溢れんばかりの多様な価値観の中で翻弄され、いまだ大きな潮流を築くに至っていない。

価値観はすべて人間自らがつくり出してきたものであり、古来より多くの哲人達は人生の真理を森羅万象有道の中に見出してきた。

現代に生きる若人が真に希求するところもまた同一にて、価値観的解釈の人生ではなく、自らが持つて生まれた魂にふさわしい生き方にこそ人生の光明と生きがいあり。

かくのごとき覚醒意識を持った若者達が集い、互いに知識を得、見識を磨き、胆識を備え、もって確固たる人生指標を築き、ともに民族の本然を継承していくことを旨とし、同志諸兄とともにここに心の学問塾『誠心館』を興すものなり。

忘れまじ誠心の歌

日の本の 国に生まれし 誉れをば 散るとも残す 志花

平成 三年 三月 三日

誠心館発起人 原 白扇

最後まで、読んで頂きまして心より御礼申し上げます。

読んで頂きました皆さまの発展を心よりお祈り申し上げます。

日
本
の
見
等
に

曙の児等！ 海原の児等！
花と焰との国、力と美との国の児等！
聴け、涯しなき海の諸々の波が
日出づる国の島々を讃ふる榮譽の歌を

汝の国に七つの榮譽あり
故にまた七つの大業あり
さらば聴け、其の七つの榮譽と七つの使命とを

一

独り自由を失はざりし亜細亜唯一の民！
汝こそ自由を亜細亜に与ふべきものなれ

二

曾て他国に隷属せざりし世界の唯一の民！
一切の世の隷属の民のために起つは汝の任なり

三

曾て滅びざりし唯一の民！
一切の人類幸福の敵を亡ぼすは汝の使命なり

四

新らしき科学と旧き智慧と、欧羅巴の思想と亜細亜の精神とを自己の衷に統一せる唯一の民！
此等二つの世界、来るべき世の此等兩部を統合するは汝の任なり

五

流血の跡なき宗教を有てる唯一の民！
一切の神々を統一して更に神聖なる真理を発揮するは汝なる可し

六

建国以来一系の天皇、永遠に亘る一人の天皇を奉戴せる唯一の民！
汝は地上の萬国に向って、人は皆な一天の子にして、天を永遠の君主とする一個の帝國を建設すべきことを教へんが為に生れたり

七

萬国に優れて統一ある民！
汝は来るべき一切の統一に貢献せん為に生れ
また汝は戦士なれば、人類の平和を促さん為に生れたり

曙の見等！ 海原の児等！

斯くの如きは、花と焰との国なる汝の七つの榮譽、七つの大業なり

【現代訳】

あけぼのの子ら！ 広々とした海の子ら
花と火が燃え盛ろうとしている国、力と美の国の子ら！
聴け、果てしない海のもろもろの波が
日出ずる国の島々を讃える榮譽の歌を

あなた方の国に七つの榮譽あり
ゆえにまた七つの大業あり
それでは聴け、その七つの榮譽と七つの使命を

一

ただ独り自由を失っていないアジアで唯一の民！
あなた方こそ自由をアジアに与えるべきものであれ

二

かつて一度も他国に支配を受け従属していない世界で唯一の民！
全ての世の中の支配を受けている民のために起つはあなた方の任された役目である

三

かつて一度も亡びていない唯一の民！
全ての人類幸福の敵を亡ぼすのはあなた方の使命なり

四

新しい科学と古い智慧と、ヨーロッパの思想とアジアの精神を自分の心の中に統一している唯一の民！
これら二つの世界、来るべき世のこれらの両部を統合するはあなた方の任された役目である

五

流血の跡のない宗教（神道）を有する唯一の民！
全ての神々を統一して更に神聖なる真理を発揮するのはあなた方でしかない

六

建国以来一系の天皇、永遠にわたる一人の天皇を謹んでいただく唯一の民！
あなた方は地上の全ての国に向って、人は皆な一天の子であり、天を永遠の君主とする一つの帝国を建設すべきことを教える為に生れたり

七

万国に優れて統一ある民！
あなた方は来るべき全ての統一に貢献する為に生れ
またあなた方は戦士であれば、人類の平和を促す為に生れたのである

あけぼの子ら！ 広々とした海の子ら
このように、花と火が燃え盛ろうとしている国であるあなた方は七つの榮譽と、七つの大業があるのである

ポール・リシャル氏は、一八七四年、南フランスの新教牧師の家に生れた。氏は常に『自分の脉管にはアラビア人の血が流れて居る』と言って居たが、その容貌にも、また其の思想にも、多量に東津的なるものがあつた。初め神学を修めて神学博士の学位を得たが、宗教によつて衣食するを潔しとせず、更に法律を学んで辯護士となり、傍ら『オーロラ』及び『シエクル』に執筆し、その思想と文章とは、直ちに世に認められて、重きを文壇に成した。而して其間に氏の哲学的並に宗教的研究を纏めたる『命あるエーテル』及び『神々』を発表して、また学界の注目を惹いた。

氏が筆を『オーロラ』及び『シエクル』に執るや、常に欧羅巴の物質的文化が、その到達すべき窮極に到達せること、従つて欧羅巴は新しき精神的文化の建設に努力せねばならぬこと、若し此事に気付かずば、欧羅巴は没落の悲運に遭遇すべきことを力説して居た。欧羅巴は竟に氏の警告に耳傾けなかつた。氏は明瞭に欧羅巴の運命を看取した。かくて氏は光明を東方に求むべく、遂に一切の事業を放棄して亜細亜旅行の途に上つた。而して先づ印度に至り、南印ポンデイシエリに於てアラビソダ・ゴーシユと相識り、此地に足を駐めることゝなつた。

アラビソダ・ゴーシユは、恐らく現代印度に於ける最大の思想家である。彼は印度青年に向つて、印度革命の真精神を最初に明確に提示せる点に於て、まぎれもなく印度革命の父である。いま仏領印度ポンデイシエリに冥想思索を事として居るけれど、印度政府の彼を怖ること虎よりも甚だしく、常に数十名の間諜をして彼の身边を警戒させて居る。リシャル氏は彼と肝膽相照して遂に義兄弟の契を結び、協力して月刊雑誌『アーリヤ』を発行した。

さてリシャル氏の予言は過たず、欧羅巴没落の先駆たるべき世界戦が勃発した。氏は直ちにフランスに帰りて軍隊に入ったが、甚だしく健康を損じたので、九箇月の後に除隊となつた。かくて祖国に対する奉公の義務を了へた後、氏は再び亜細亜の旅に上つた。而して此度は先づ吾が日本に來た。日本には唯だ数箇月滞在の心算であつたとは、氏の常に繰返せるところであつた。氏の來遊は、恐らく東洋の新興國を一瞥するためであつたらう。而も日本の或ものが、強く氏の魂を捉へて、遂に四年を日本に過ごさせた。

予の初めて氏と相識れるは、氏がミラ夫人及び英人ホチソン嬢と共に日本に來りてより約半年、即ち大正五年十月下旬であつた。比年の夏、予はジャパン・アドヴタイザー紙上で、アラビソダ・ゴーシユの思想を紹介せるリシャル氏の文章を読み、氏に面会して数々の事を尋ねたいと思ひ、一人人をアドヴタイザー社にやつて氏の住所を訊かせたが、恐らく英国側の指金であつたらう、同社では秘して之を知らせなかつた。

然るに当時ハリ・プラサード・シャーストリといふ印度の学者が東京に滞在して居た。そのシャーストリ君が、此年の仲秋の一日、早稲田大学で印度哲学に関する講演をやるから、予にも是非聴けと言つて、態々自分で誘ひに來たので、左程が進まなかつたけれど同行した。講堂には聴衆が数十名其中に數名の外国人が居たが、一人際

立って予の心を惹いた中年の婦人があった。その婦人は、美しくもあり気品もあったが、それにも増して魂の力強さが、其の容貌にはつきりと現れて居た。やがて講演が終り、其後に有志が残って座談会をやるといふことであつたが、予はシャーストリ君の思想に格別の共鳴を感じなかつたので座談会には出ずに帰つた

その翌日シャーストリ君がまた予を訪ね、昨日早稲田大学にリシャル夫人が聴講に来て居たが、あの丈高い日本人を知つて居るかと思つたから、懇意の間柄だと答へた。すると夫人は、今度一諸に遊びに来るやうにとのことであつたから、近いうちに訪問しようと言ふ。予は昨日予の心を惹いた婦人がリシャル夫人に相違ないと思つた。リシャル氏には是非会ひたいと思ひ乍ら、住所を知り兼ねて居た際であるから、予は欣然として此の招きに応じ、其後数日を経たる一夜、シャーストリ君に伴はれてリシャル氏夫妻を訪問した。そのころ氏は小石川区茗荷谷に住んで居た。夫人は果して先日の方婦人であつた。リシャル氏は年輩四十前後、美しい鬚髯を蓄へ、柔和な併し乍ら思慮深い眼をした立派な紳士で、一見して哲人といふ印象を与へられた。其晩は予等の外に数人の来客があり、若し予の記憶に誤りなくば、秋田雨雀氏も其中に居た。いろいろの話題について談話が取交はされて居たが、リシャル氏が突然予に向つて『何が最も適切に日本を象徴するか』と訊ねた。そのころ予は宮本武蔵を研究して居たので、言下に『刀』と答へた。リシャル氏は意外だといふやうな面持であつたから、予は若干の説明を加へた。此事ありて幾くばくもなくシャースー君は、英国のスパイだといふので、在京印度学生から排斥され、日本に居堪まらず上海に去つた。此事を聞いたリシャル氏は『シャーストリ君の使命は吾々を紹介することであつた。その使命を了へたので日本に用事が無くなつたのだ』と言つた。

さて其後數回訪問するうち、リシャル夫妻と予との間に、不思議に濃かな友情が湧いて来たそのころ予は青山高樹町に住んで居たが、夫妻は屢々予の家にも訪ねて来た。やがて予はミラ夫人にフランス語を習ふこととなり、毎週三度、小石川竹早町で電車を下り、切支丹坂を降り幽霊坂を上つて、氏の寓居に通つた。訪ふのは毎日午後四時前後、先ずミラ夫人にフランス語を習つた後、氏一家と晩食を共にし、夜更くるまで談論して帰るを常とした。リシャル氏夫妻は菜食主義で、肉も魚類も一切用ゐなかつたが、その料理は実に旨かつた。其後大正八年二月、氏が千駄ヶ谷に転居してからは、予もまた其家に同居し、翌大正九年二月、氏が再びアラビンダ・ゴージュを訪ふべく、印度に向つて日本を去るまでの満一年間、全く生活を一つにした。

大正五年の秋、『萬国に告ぐ』と題するリシャル氏の著書が印度で出版された。予は此書を一読して其の高邁なる思想、その雄渾なる文章に打たれ、氏に向つて日本に告ぐる一篇の起草を求めた。氏は直ちに承諾した。それに取つかかつたのは、此年十二月下旬である。二階の小さい書齋に陣取り、氏は徐ろに冥想に入る。ミラ夫人が筆写の用意を整へて卓に倚つて待構へる。天来の声が心耳に響く毎にポツリポツリとリシャル氏が口授する章句を、ミラ夫人が書取る。斯くの如きこと実に三十五日、其間足一歩も門外に出でず、翌年一月下旬に至つて成れるもの、即ち『告日本国 Au Japon』である。

予は至深の感激を以て此の稀有の文章を邦訳し、之を携へてリシャル氏夫妻を川嶋浪速先生に紹介した。予の訳文を一読せる川嶋先生の驚嘆と感激とは、筆紙に盡すべ

くもなきほどであった。先生は直ちに此の一篇を東亜諸国の識者に頒たんと決心し、松平康国翁に漢訳を依頼した。而して漢訳成るや、ミラ夫人の英訳及び予の邦訳を併せて之を印刷に附し、先づ之を時の皇太子殿下に奉獻し、次で日支両国朝野の士に之を贈呈した。そは深甚なる感銘を与へ、幾多の共鳴者を得たが、就中北吟吉君は、氏を以て『我以上に我を知る者』『真人の稱に値する者』と激稱し、長文の批評を『東方時論』に発表した。

当時の日本は民主主義を謳歌して居た。然るにリシヤル氏は下の如く教へて居る——『近代国家の大多数が、種々の形式の下に実行して居る民主主義は、之を総括的に定義して、議会政治的・黄金政治的個人主義と言ふことが出来る。日本が同化しようとして望んで居るのは、この形式の民主主義であるか。若し然りとすれば、日本は何の益する所もない。欧羅巴は近き将来に於て、日本が現に模倣しつつある政治的・社会的生活様式を根底から改造せねばならなくなる。而して多分彼等は日本が進歩の典型であると思つて居る制度其者をも、時勢遅れのものとして捨て去るであらう。かくして単なる模倣者としての日本は、後に取残されて重大な危機に当面するであらう。』此の言葉は的確に當つて居る。

国際聯盟に就ても、リシヤル氏は明白に其の本質を洞察し、之を賛美しつつありし日本の知識階級に、三斗の冷水を浴びせた——『狐ども、鳥どもに向つて曰ふ、一つ組合を作らうぢやないか。之を国際聯盟といふ。蛇、虎に向つて曰ふ、皆な爪を使はぬことにしよう。之を軍備撤廃といふ。』『汝の聯盟は、隷属の国民より自由にならんとする権利を奪ふものなるか。そは弱き国民より強大にならんとする権利を奪ふものなるか。そは若き国民が老いたる国民に代つて、継承者たるべき権利を奪ふものなるか。語を換えて言えば、汝は諸々の国民が、一切の生物と同じく、生れ、育ち、死ぬることを阻止せんと欲するか。』

リシヤル氏は殆ど公けの集會に顔を出さなかつたが、大正八年春に催された人種的差別撤廃期成會には、二回出席して亜細亞聯盟の結成を提唱した。氏は実に下の如く言ふ——『亜細亞は二重の意味に於て覚醒せねばならぬ。何となれば諸君の大業は、同時に精神的であり且つ物質的であらねばならぬからである。諸君は組織と統一を与へることによつて、亜細亞を覚醒せしめねばならぬ。而して之が為には亜細亞諸國に対して、主人たる態度を棄て、同盟者たる態度を取らねばならぬ。世界に向つて人類の平等を稱へる諸君は、亜細亞諸國に対して、自ら人種的偏見に陥る如きことあつてはならぬ。同胞として彼等と相交はか、之を奴隷視してはならぬ。而して現に奴隷の境遇に置かるる者には、諸君の同胞たらしめるために、先づ之に自由を与へねばならぬ。希くは彼等と共に一個の家族を形成せよ。希くは亜細亞聯盟を組織せよ。』

『而も之がためには、百尺竿頭更に一步を進めねばならぬ。蓋し心一なる時のみ、體もまた一たり得る。されば亜細亞精神を統一せよ。諸君の裡に、亜細亞の裡に、統一の意識を喚起し、一切の存在に内在する唯一の精神を自覚し、一切の事物に内存する唯一の存在者あることを自覚して、以て亜細亞精神を統一せよ。この意識は亜細亞の最も神聖なる宝にして、欧羅巴の有せんと欲して得ざりしものである。是れ実に亜細亞をが発見し、継承したる至極の真理である。この真理は、亜細亞をして永遠に偉大ならしめ、亜細亞をして真個に偉大ならしむる所のものである。』

『亜細亜は誠に天が諸君に与へ給へる活動の舞台である。希くは亜細亜の自由なる諸国を召集して亜細亜聯盟の実現に努めよ。亜細亜が自由を得べき日は近づきつゝある。亜細亜のうち軽蔑を受ける国ある間は、他の亜細亜諸国も決して尊敬を博すことが出来ない。若し諸君にして真に世界の尊敬を博せんと欲せば、他の亜細亜諸国をも尊敬せらるべき国とせねばならぬ。諸君は亜細亜を救ふことによつて、自らを救ひ且つ世界を救ふものである。』

当時に於て氏の勧告に耳傾ける者は甚だ稀であつた。爾來春風秋雨二十餘年、今日日本は東新秩序建設のために、国を挙げて聖戦に従ひつゝある。リシャル氏は、いま日本国民が言はんと欲する所を、既に二十有餘年前に、切実無比に道破し去つて居る。

日本の国體に冠する氏の理解は、まさしく驚嘆に値するものがある。氏は「日本若し將來の栄冠を欲せば」といふ一文の中に、下に如く述べて居る――

『日本は内面的に、如何にして理想的国家を建設すべきかの原理を發見し、且つ之を体得せねばならぬ。理想の国家とは、他の国々に於ては常に相背き相容れざる二つの神聖なる原理、即ち君權と民權とが、根本的に調和され統一されて居る国家である。君權と民權とは、共に其源を天に發する。此の両者が相背き相争ふに至るは、その本來の神聖なる意義が没却されるからである。故に若し君主は即ち偉大なる天の象徴であり、人民もまた天の千萬の表現なる所以を体得するならば、若し君主は天の統一的方面を地上に代表し、人民は同じく天の差別的方面を地上に表現するものなることを會得するならば、兩者の間に何等の矛盾衝突あるべき道理なく、茲に眞の民本主義と天皇主義とは、名を異にして体を同じくすることとなる。須く國民の魂に、天つ神が人間の相を取りて國民に君臨し給ふというふ信仰を潑刺たらしめて、眞個の天皇主義を実現せよ。君民もと一体である。此の相補ひて以て一体を成すべき君臣の間を阻隔するものゝ現れぬやう心掛けよ。若し夫れ如是の墻壁現れなば、そは天日を蔽ふて大地を暗黒にせねば止まぬ。諸君は曩に君臣の間を阻隔せる將軍を除き去りて、朗かなる天日を仰ぐことを得た。而も此の將軍は、今や別個の姿、別個の名前を以て、再び日本に現れんとしつゝある。』

滿洲事変以前の日本思想界に於て、如何に非日本的思潮が横溢して居たかを記憶する人は、此のフランスの哲人の洞察と靈感とに敬意を表せず居られぬであらう。當時猶存社の孤壘に拠つて一代の属潮と戦ひつゝありし予に取りて、リシャル氏は神兵の援軍の如く感ぜられた。

かゝる間にリシャル氏の日本滞在は、足掛五年に及んだ。氏は『此国に於ける予の仕事は終つた』と言つて、再びアラビンダ・ゴシユを訪ふこととなつた。その日本を去つて印度に向ふを神戸埠頭に見送つたのは、大正九年二月下旬の晴れて温き一日であつた。氏は印度に赴いて約半年ポンドイシエリにアラビンダ・ゴシユと共に駐まり、次で印度遍歴の旅に上り、更にヒマラヤ山中の孤村に行者の生活を送ることとなつた。下の手紙は、大正十年、山中より予に宛てたるものである。

わが最も親愛なる大川君。

お互いに何と長い間の物々しい沈黙ではなかった。併し友情の絆は一層強くなり、吾等の魂は常に偕にある。予は一日として君を思はぬ日なく、懐かしき日本に於て、予と友情を交はした四年間の多幸なりし生活を繰返し繰返し想ひ起こす。神々の国―国の神々―日本、その日本は只今の予には天上の国のやうに思はれ、また失へる樂園のやうにも思はれる。予の日本滞在は、現実としては餘りに美しき夢のやうに思はれてならぬ。あゝ何時また如何にして、予はかの欣びを君等と偕に再びすることが出来るだらうか。将来のことは竟に予に判らない。

昨年十一月、予はボンデイシエリを去つてアデイアルに往つた。其頃のこと、ボンデイシエリの吾々の家は、豪雨のため崩潰し、妻とホヂソン嬢てや、アラビンダ・ゴシエのところへ避難した。予は此事によつて明白に天意を看取した。天は此の世界から予の住むべき家を取上げて、また予を孤独なる遍歴の旅に出よと告げ給ふ。故に予はアデイアルを後にして、隈なく印度を旅した。その途々、予は諸処に『人種平等同盟』の支部を設けた。この仕事は順調に運び、近くデリーに本部が置かれるであらう。印度で一応之を仕遂げてから緬甸・暹羅・支那に赴き、此等の国々にも同じく支部を設け、吾等の亜細亜運動に貢献したいと思つて居る。

わが旅は歩々予を此処まで導いて来た。数名の青年と共に、こゝヒマラヤ山中の孤村コトガルに着いてから、最早二個月を過ぎた。ジムラから山路を五十哩、西藏へ百五十哩の寂しき村、そして吾々の住むところは一室限りの茅屋であるが、そして夜な夜な訪づれるものは唯だヒマラヤ熊だけであるが、而も見よ、わが茅屋を囲む轟々たる樹立を透かして、前面には千古の雪に耀く西藏の山々、東西南の三方は物凄く蒼きヒマラヤの峰々―その森の中に、君よ、予は昔の行者の生活を送つて居る。沈黙と寂莫とに囲まれつゝ、貧しき行者の冥想の生活を送りつつ、而も吾心は寤寝つねに亜細亜と世界のための吾等の仕事を忘れない。吾等の仕事が、地上のものならぬ力を必要とすることは、君よく之を知る。

どうぞ手紙を書いてくれ。君のこと、また君の仕事を知らしてくれ。何時、そして何処で吾等は復た会ふことであらう。予はヒマラヤ山中に何時まで居るか自分にも判らぬ。予は吾神と共に生涯を此処に過してもよい。また明日此処を去つて旅路に出てもよい。停まるも往くも吾心でない。予は天の指図に従ふ。

君よ、大川君よ、変ることなき友情と、弟に対する愛情とをもて此の手紙を認む。

一九二一年六月八日

北印度西藏街道コトガルにて

ポール・リシャル

二年の後、リシャル氏は、ミラ夫人及びホヂソン嬢をボンデイシエリに残し、小亜細亜よりエジプトに旅し、次でフランス及びスイスに住み、いまは北米合衆国を遍歴して居る。予が五・一五事件に連坐して下獄するや、長文の手紙を寄せて予を慰めて来た。予は此世に於て氏と再会する日の必ず来るべきを信じ、楽しんで其日を待つものである。